

川西市

ごみの減量を考える市民アンケート

調査結果報告書

令和6年10月

川 西 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	結果の見方	1
II	調査結果の要約	2
1	ごみの減量に対する意識	2
2	ごみの減量への取り組み方	2
3	ごみに関する困りごと	2
III	調査結果の分析	3
1	ごみの減量に対する意識	3
1-1	ごみの減量の必要性を身近に感じている程度	3
1-2	二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度	5
2	ごみの減量への取り組み方について	7
2-1	ごみの減量への取り組み	7
2-1-1	具体的な取り組み・工夫の内容	9
2-1-2	ごみの減量に取り組むことができるか	17
2-1-3	ごみの減量についてできそうなこと	19
2-1-4	ごみの減量に取り組むことができない理由	22
2-2	リサイクルできるごみを捨てることがあるか	25
3	ごみに関する困りごと	27
3-1	ごみの排出方法や収集に関して困っていることがあるか	27
3-1-1	ごみの排出方法や収集方法で困っていること	28
4	回答者について	33
4-1	性別	33
4-2	年齢	34
4-3	同居人数	35
4-4	ごみステーションの当番制の有無	36
5	自由意見	37
5-1	ごみの減量に向けての意見・要望	37
IV	資料編	53

I 調査の概要

1 調査の目的

川西市では、「ともに取り組み、目指そう、持続可能な循環型社会」を基本理念に、ごみの減量化の取り組みを進めており、令和6年度からの8年間で[1人あたり1日91gのごみ減量]を目標に、指定ごみ袋による有料化などの取り組みを実施していくこととしています。

ごみをめぐる課題は、市民の生活に直結する身近なものであり、市民の皆さんのご協力なくして解決できる問題ではありません。

今回、川西市民を対象に、ごみの減量や分別についての市民の意識やニーズを把握し、ごみ減量化・資源化施策の基礎資料とするために本調査を実施しました。

2 調査の方法

種別	ごみの減量を考える市民アンケート
調査対象	川西市在住の満18歳以上の市民(令和6年3月1日時点)
調査地域	川西市全域
調査方法	郵送法、オンライン調査法の併用型
調査期間	令和6年4月12日～5月10日
配布数	5,000件(無作為抽出)
回収数	1,340件(紙回答794件、電子回答546件)
回収率	26.8%

3 結果の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

Ⅱ 調査結果の要約

1 ごみの減量に対する意識

- ☆ ごみの減量に対して必要と考えている人、二酸化炭素の実質排出量ゼロへ関心を持っている人はともに、男性よりも女性の方がその傾向にあり、また、年齢が高くなるにつれて必要性や関心度が高くなる傾向にあります。

2 ごみの減量への取り組み方

- ☆ ごみの減量に取り組んでいる人は、男性よりも女性の方が取り組んでいる割合が高く、また、年齢が高くなるにつれて取り組む割合が高くなる傾向にあります。
- ☆ また、ごみの減量に対して必要と考えている人や、二酸化炭素の実質排出量ゼロへ関心を持っている人は、ごみの減量に取り組んでいる割合が高くなっています。
- ☆ ごみの減量に取り組んでいる人が具体的に工夫していることは、「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」や「詰め替え品の購入を心がける」「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」「生ごみは水気を切ってから出す」といった日常生活に関わる内容が6～9割と高い傾向にあります。
- ☆ これからごみの減量に取り組めるかについて、「いいえ」と回答する割合は、女性よりも男性の方が高く、また、若い人ほどその傾向にあります。
- ☆ 現在ごみの減量に取り組んでおらず、今後取り組む意向がある人の具体的な行動については、現在取り組んでいる人と同様に、「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」や「詰め替え品の購入を心がける」「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」「生ごみは水気を切ってから出す」といった日常生活に関わる内容が5～7割と高い傾向にあります。
- ☆ ごみの減量に取り組めない理由は、10～30歳の若い世代では「時間的な余裕がない」、40歳以上で「ごみを減らす方法が分からない」となっています。
- ☆ リサイクルできるごみを捨てる傾向は、40歳代が最も高く、30歳代や50歳代でも高い割合となっています。

3 ごみに関する困りごと

- ☆ ごみの排出方法や収集で困っている内容は、「ごみステーションがカラスなどにあらされる」や「分別方法が分かりにくい」、「ごみ当番ができない（ごみステーションの管理が難しい）」の割合が高い傾向にあります。
- ☆ また、一人暮らしの場合は、「ごみステーションまでごみを捨てに行くのが大変」の割合が最も高くなっています。

Ⅲ 調査結果の分析

1 ごみの減量に対する意識

1-1 ごみの減量の必要性を身近に感じている程度

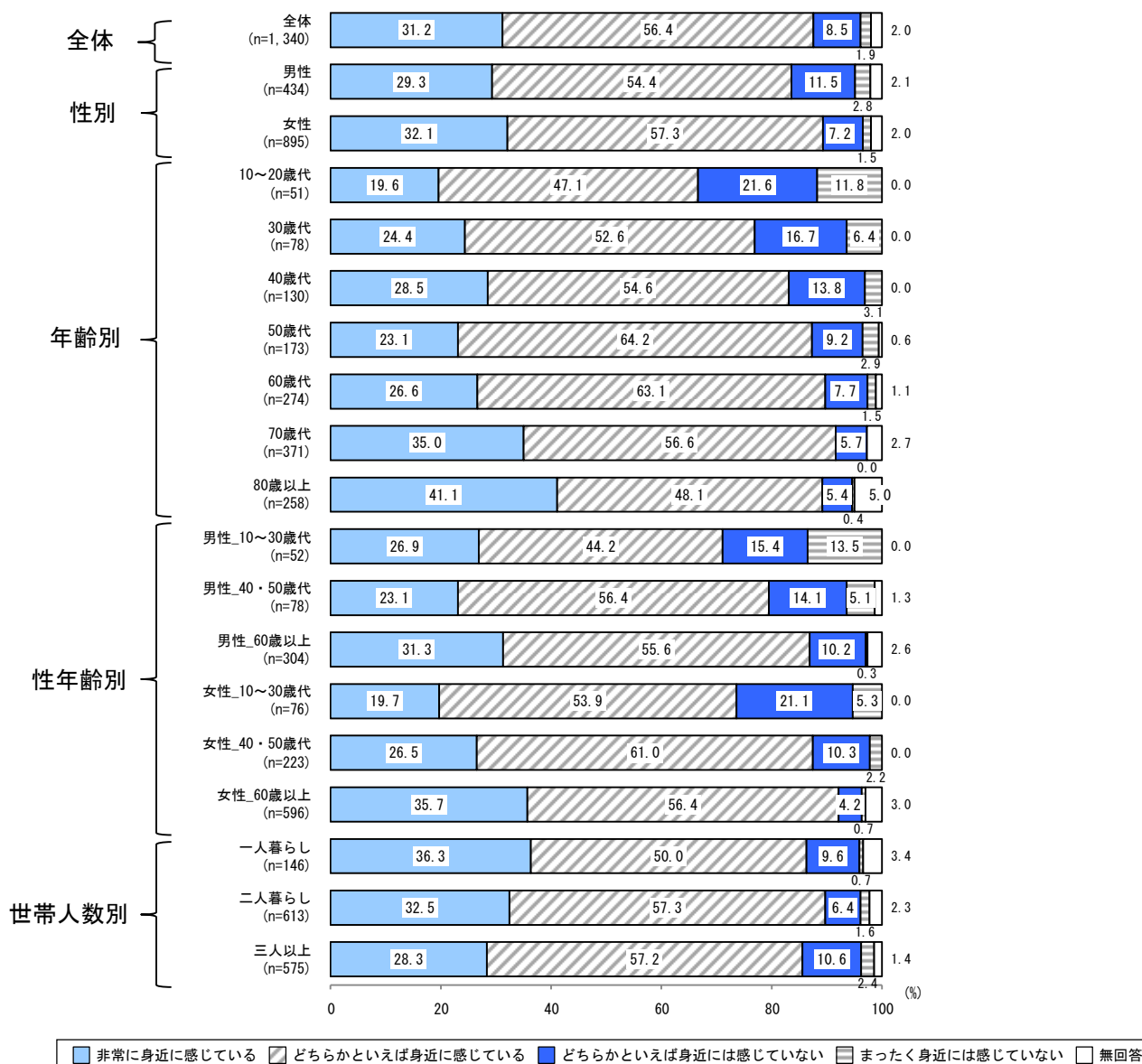
問1 あなたは、「ごみの減量の必要性について」、どの程度身近に感じていますか。
(○はひとつ)

全体では、『身近に感じている』（「非常に身近に感じている」と「どちらかといえば身近に感じている」の合計）が87.6%となっています。

性別では、男性よりも女性の方が『身近に感じている』割合が高くなっています。

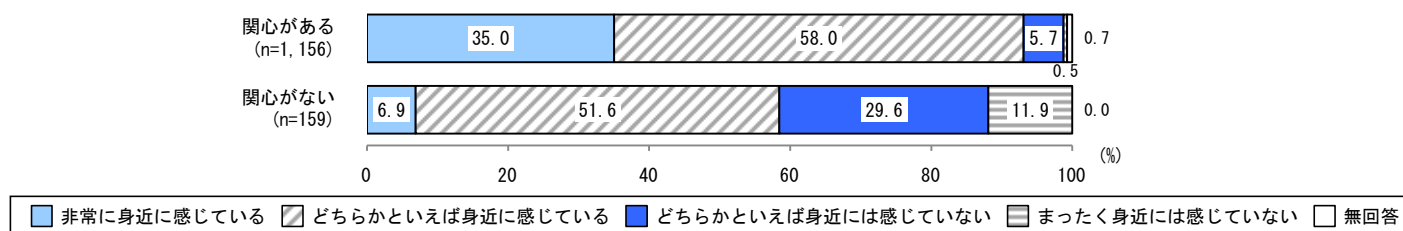
年齢別、性年齢別では、性別にかかわらず、年齢が高くなるにつれて『身近に感じている』割合が高くなっています。

世帯人数別では、人数が増えるほど「非常に身近に感じている」の割合が少なくなっています。



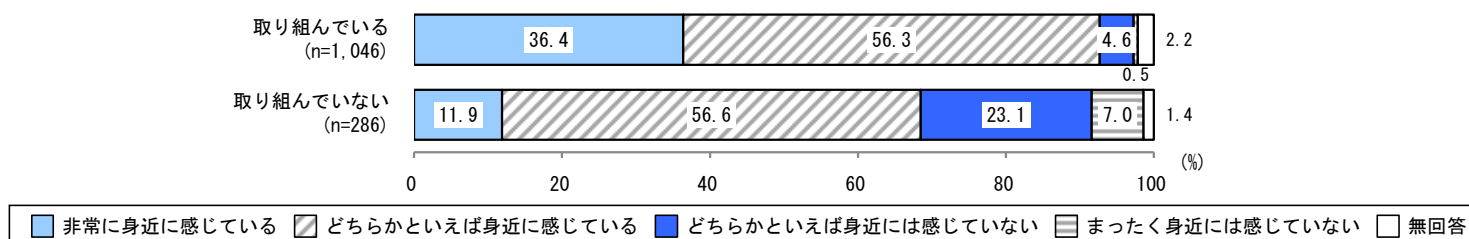
【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別にみると、【関心がある】方が、『身近に感じている』割合が高くなっています。



【ごみの減量への取り組み別】

ごみの減量への取り組み別にみると、【取り組んでいる】方が、『身近に感じている』割合が高くなっています。



1-2 二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度

問2 本市は、令和4（2022）年8月に2050年までに「二酸化炭素の実質排出量ゼロ」を目指しゼロカーボンシティを宣言しました。ごみ処理の分野においては、家庭から出されたごみの焼却で発生する温室効果ガスだけでなく、ごみ処理場への収集運搬にも多くのエネルギーが使われ、地球温暖化に悪影響を及ぼす問題が潜んでいます。

あなたは、この「二酸化炭素の実質排出量ゼロ」について関心がありますか。

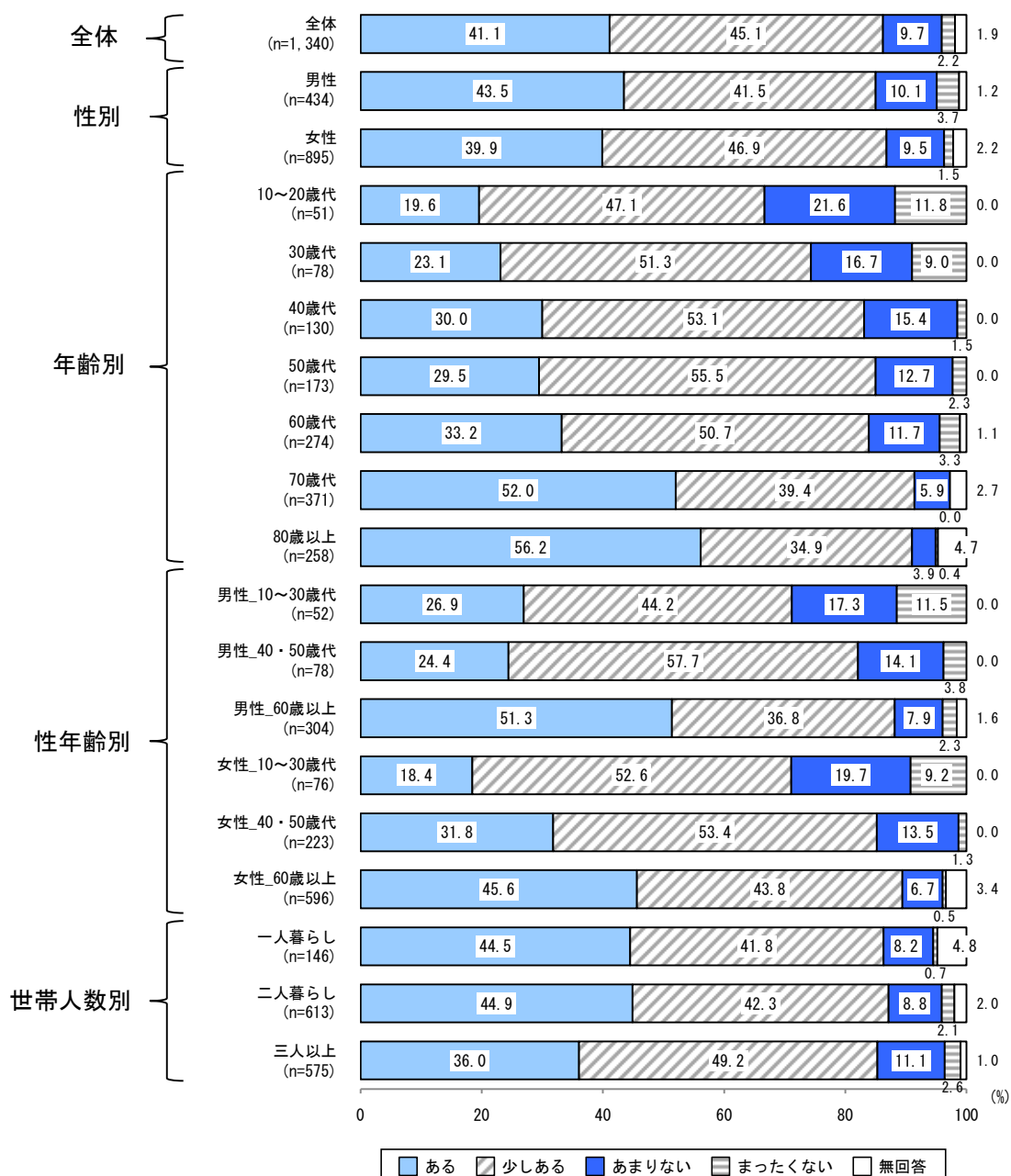
（〇はひとつ）

全体では、『関心がある』（「ある」と「少しある」の合計）が86.2%となっています。

性別では、男性よりも女性の方が、『関心がある』割合が高くなっています。

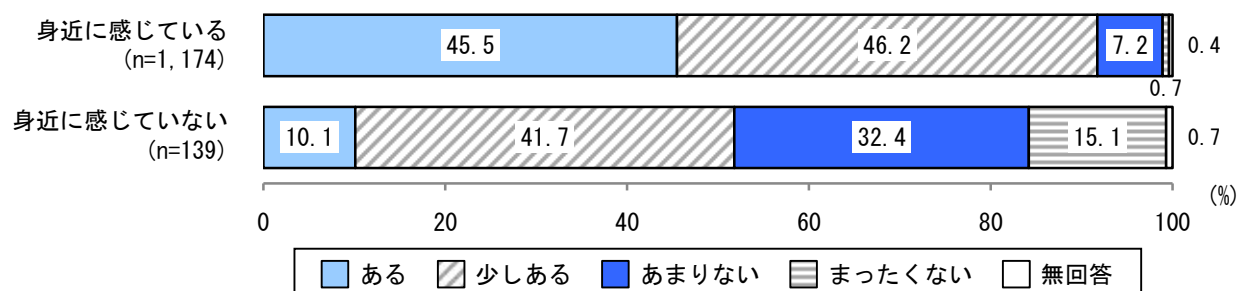
年齢別、性年齢別では、性別にかかわらず、概ね年齢が低くなるにつれて『関心がある』割合が低くなっています。

世帯人数別では、『一人暮らし』『二人暮らし』の方が、『三人以上』の世帯よりも、「ある」割合が高くなっています。



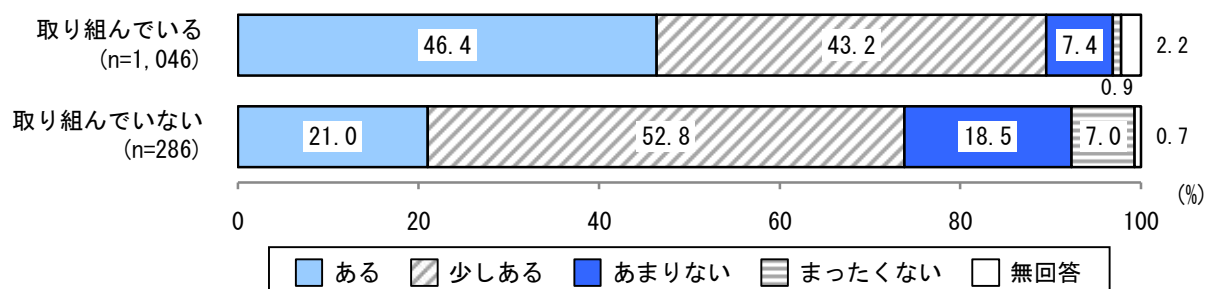
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別をみると、【身近に感じている】方が、『関心がある』割合が高くなっています。



【ごみの減量への取り組み別】

ごみの減量への取り組み別をみると、【取り組んでいる】方が、『関心がある』割合が高くなっています。



2 ごみの減量への取り組み方について

2-1 ごみの減量への取り組み

問3 令和（2024）6年3月に策定した「川西市一般廃棄物処理基本計画」では、スローガンとして『ごみにする？それは結局あなた次第～今日から1人1日マイナス91g～』を掲げています。

あなたは今のごみの排出量から減らすことについて取り組んでいますか。

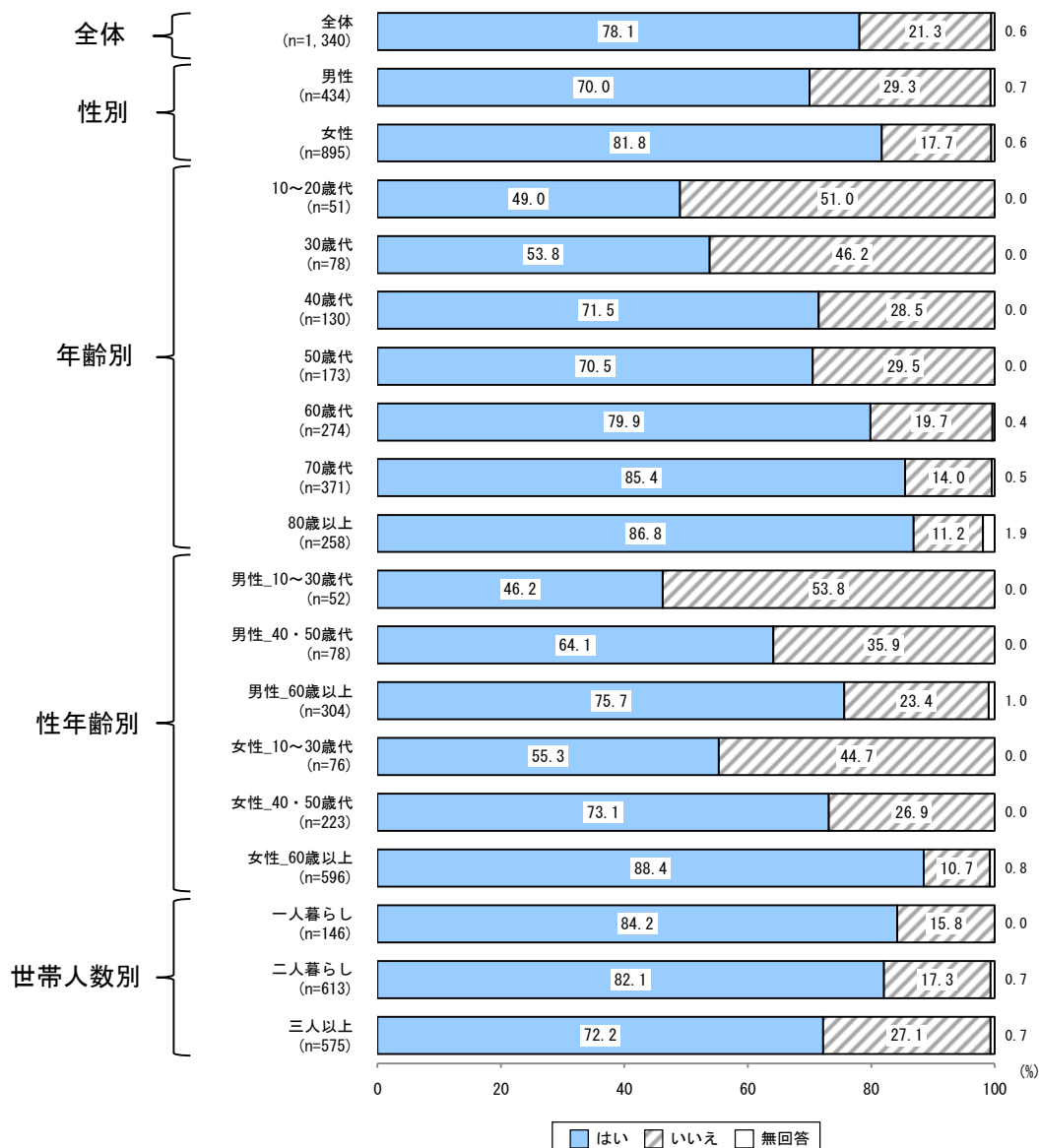
（〇はひとつ）

全体では、「はい」が78.1%、「いいえ」が21.3%となっています。

性別では、男性よりも女性の方が、ごみの排出量を減らすことに取り組んでいる割合が高くなっています。

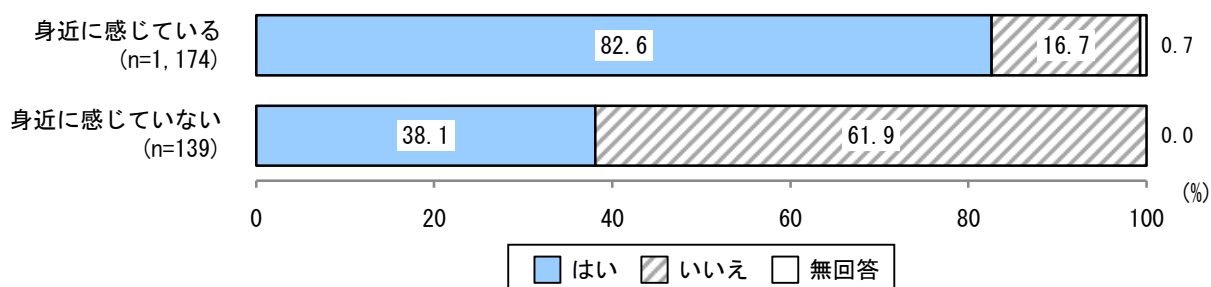
年齢別、性年齢別では、性別にかかわらず、概ね年齢が高くなるにつれてごみの排出量を減らすことに取り組んでいる割合が高くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が少ないほど、ごみの排出量を減らすことに取り組んでいる割合が高くなっています。



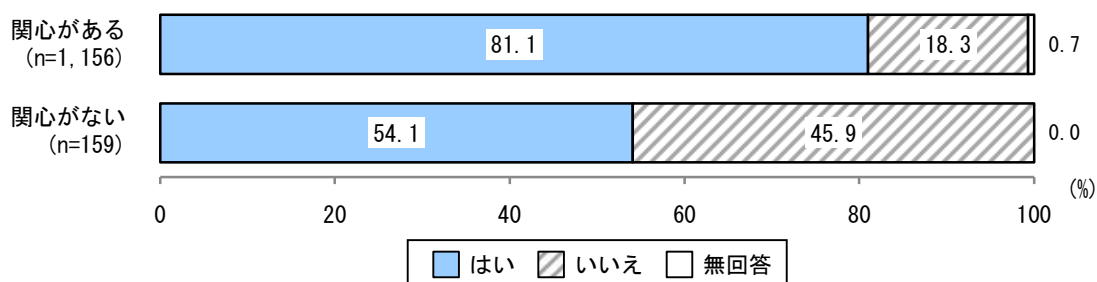
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別にみると、【身近に感じている】方がごみの排出量を減らすことに取り組んでいる割合が高くなっています。



【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別にみると、【関心がある】方がごみの排出量を減らすことに取り組んでいる割合が高くなっています。



2-1-1 具体的な取り組み・工夫の内容

問3-1 ごみを減らすことについて、工夫していることを教えてください。(〇はいくつでも可)

※問3-1は、問3で「はい」と回答した方のみ回答

全体では、「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」が91.0%で最も高く、次いで「詰め替え品の購入を心がける」が80.0%となっています。

性別では、性別にかかわらず「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」が最も高く、年齢別では、「生ごみは水気を切ってから出す」は年齢が高くなるにつれて高くなっています。

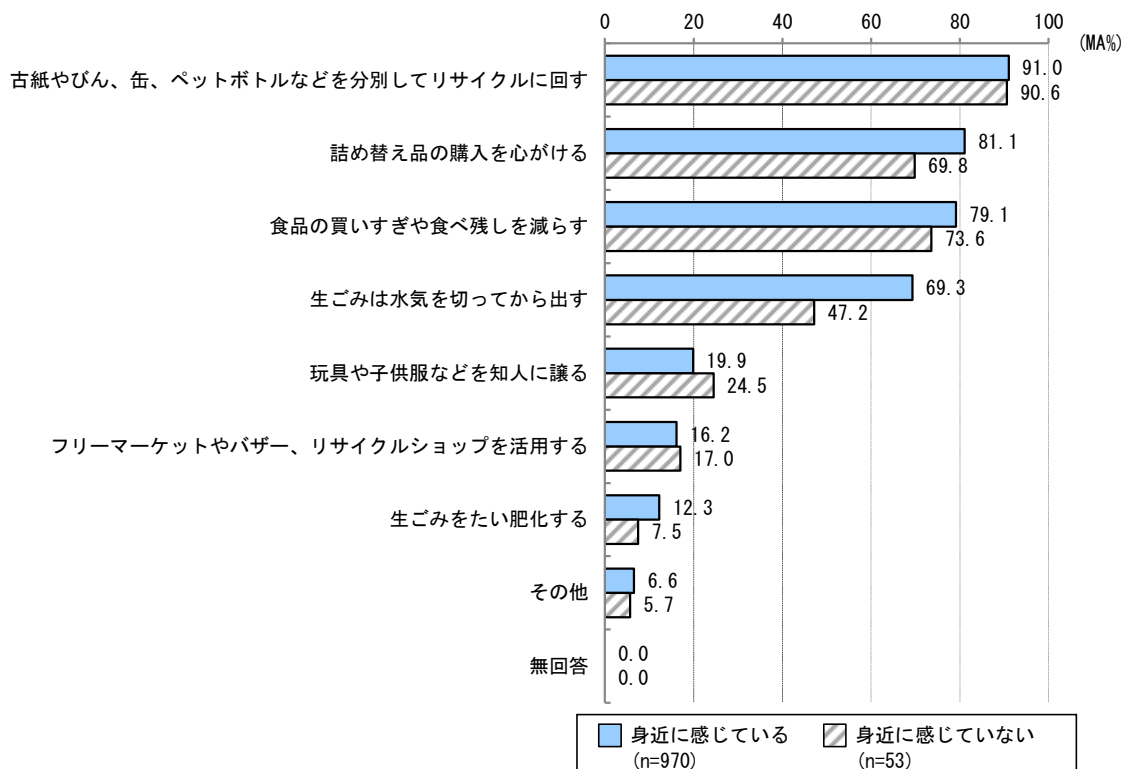
性年齢別では、性別にかかわらず「フリーマーケットやバザー、リサイクルショップを活用する」は年齢が低くなるにつれて高くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が少なくなるにつれて「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」が高くなっています。

		古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す	詰め替え品の購入を心がける	食品の買いすぎや食べ残しを減らす	生ごみは水気を切ってから出す	玩具や子供服などを人に譲る	フリーマーケット、リサイクルショップを活用する	生ごみをたい肥化する	その他	無回答
全 体 (n=1,046)		91.0	80.0	78.9	68.5	19.8	16.3	12.0	6.5	0.0
性別	男性 (n=304)	88.5	73.0	76.3	53.6	14.1	15.8	12.8	6.6	0.0
	女性 (n=732)	92.2	82.8	80.2	74.9	22.0	16.5	11.5	6.4	0.0
年齢別	10～20歳代 (n=25)	56.0	72.0	68.0	28.0	20.0	24.0	16.0	8.0	0.0
	30歳代 (n=42)	90.5	92.9	73.8	50.0	45.2	26.2	7.1	4.8	0.0
	40歳代 (n=93)	87.1	87.1	77.4	61.3	52.7	34.4	4.3	3.2	0.0
	50歳代 (n=122)	89.3	86.9	85.2	62.3	25.4	12.3	7.4	4.9	0.0
	60歳代 (n=219)	92.2	86.8	79.9	68.5	18.3	21.9	12.3	5.5	0.0
	70歳代 (n=317)	93.1	78.2	76.7	73.2	12.3	12.9	14.2	6.3	0.0
	80歳以上 (n=224)	93.3	67.9	79.9	76.3	10.3	7.6	14.3	9.8	0.0
性年齢別	男性_10～30歳代 (n=24)	79.2	91.7	75.0	37.5	33.3	29.2	12.5	4.2	0.0
	男性_40・50歳代 (n=50)	76.0	78.0	76.0	48.0	28.0	20.0	10.0	2.0	0.0
	男性_60歳以上 (n=230)	92.2	70.0	76.5	56.5	9.1	13.5	13.5	7.8	0.0
	女性_10～30歳代 (n=42)	78.6	81.0	71.4	45.2	38.1	23.8	9.5	7.1	0.0
	女性_40・50歳代 (n=163)	92.0	89.6	84.7	66.3	39.9	22.7	4.9	4.9	0.0
	女性_60歳以上 (n=527)	93.4	80.8	79.5	79.9	15.2	14.0	13.7	6.8	0.0
人数世帯別	一人暮らし (n=123)	87.0	70.7	85.4	72.4	8.1	8.9	9.8	6.5	0.0
	二人暮らし (n=503)	92.2	81.1	80.7	72.8	14.9	16.3	13.7	7.4	0.0
	三人以上 (n=415)	90.6	81.4	74.5	62.2	29.2	18.6	10.4	5.3	0.0

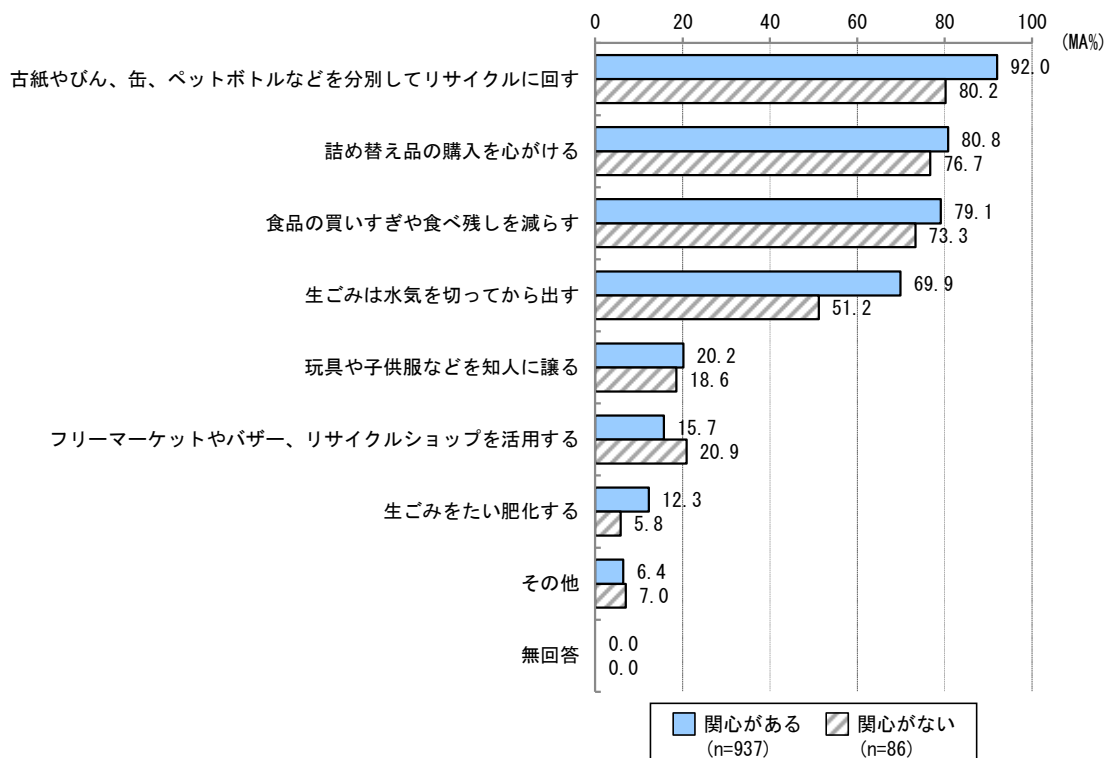
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別にみると、「生ごみは水気を切ってから出す」、「詰め替え品の購入を心がける」は【身近に感じている】方が高くなっています。



【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロについての関心度別にみると、「生ごみは水気を切ってから出す」、「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」は【関心がある】方が高くなっています。



【具体的な取り組み・工夫の内容の再分類①】

ごみを減らすための具体的な取り組み・工夫の内容を「日常で広く実施されている活動（ごみ出し・購入時の工夫等）のみ」と「日常的にあまり実施されていない活動（知人に譲る・フリーマーケット・生ごみたい肥化）にも取り組んでいる」に分類しました。

「日常でのごみ出し・購入関係のみ」に該当する選択肢は、多くの方が回答していることに対し、**「リサイクル関係（知人に譲る・フリーマーケット・生ごみたい肥化）も実施」**に該当する選択肢を回答している方は少ない傾向にあり、積極的にごみ処理の活動を行っている方を明らかにすることが分析の意図となっています。

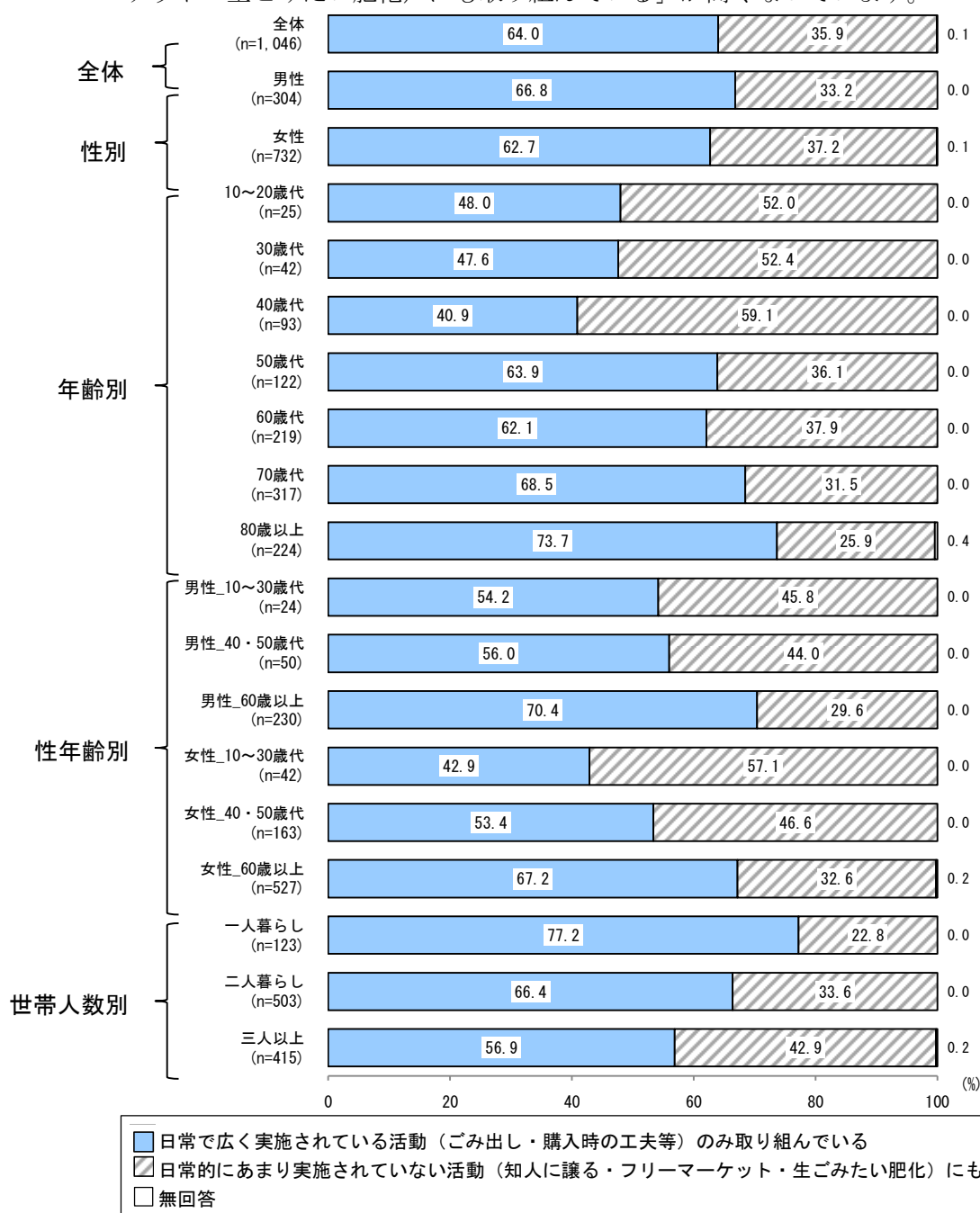
見出し	選択肢
日常で広く実施されている活動（ごみ出し・購入時の工夫等）のみ	<u>下記の4つの選択肢（全体での回答率6～9割の選択肢）のいずれかしか回答していない</u> ● 古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す ● 食品の買いすぎや食べ残しを減らす ● 生ごみは水気を切ってから出す ● 詰め替え品の購入を心掛ける
日常的にあまり実施されていない活動（知人に譲る・フリーマーケット・生ごみたい肥化）にも取り組んでいる	<u>下記の3つの選択肢（全体での回答率2割未満の選択肢）のいずれかを回答している</u> ● 生ごみをたい肥化する ● フリーマーケットやバザー、リサイクルショップを活用する ● 玩具や子供服などを知人に譲る

ごみを減らすための具体的な取り組み・工夫の再分類①でみると「日常で広く実施されている活動（ごみ出し・購入時の工夫等）のみ取り組んでいる」は64.0%、「日常的にあまり実施されていない活動（知人に譲る・フリーマーケット・生ごみたい肥化）にも取り組んでいる」は35.9%となっています。

性別でみても差はみられず、年齢別では、10～40 歳代にかけては「日常的にあまり実施されていない活動（知人に譲る・フリーマーケット・生ごみたい肥化）にも取り組んでいる」が高く増加傾向にあり、以降は「日常で広く実施されている活動（ごみ出し・購入時の工夫等）のみ取り組んでいる」が高くなっています。

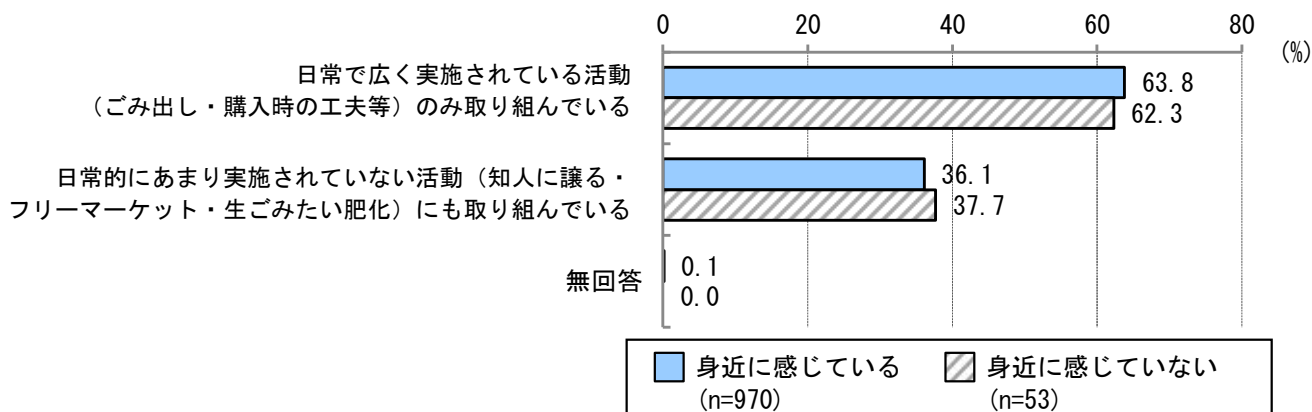
性年齢別では、性別にかかわらず年齢が高くなるにつれて「日常で広く実施されている活動（ごみ出し・購入時の工夫等）のみ取り組んでいる」が高くなっており、いずれの年齢においても女性よりも男性の方が高くなっています。

世帯人数別では、人数が多くなるほど「日常的にあまり実施されていない活動（知人に譲る・フリーマーケット・生ごみたい肥化）にも取り組んでいる」が高くなっています。



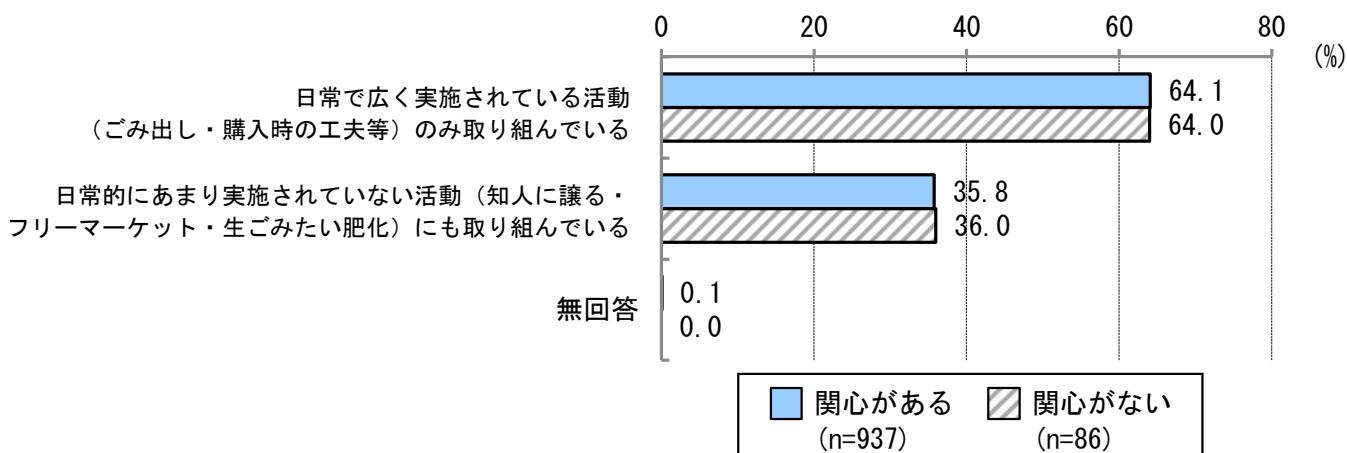
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別でみると、結果に大きな差はみられませんでした。



【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別でみると、結果に大きな差はみられませんでした。



【具体的な取り組み・工夫の内容の再分類②】

ごみを減らすための具体的な取り組み・工夫の内容を「発生抑制」と「リサイクル関係」に分類すると、全体では「発生抑制」が72.0%、「リサイクル関係」が35.9%となっています。

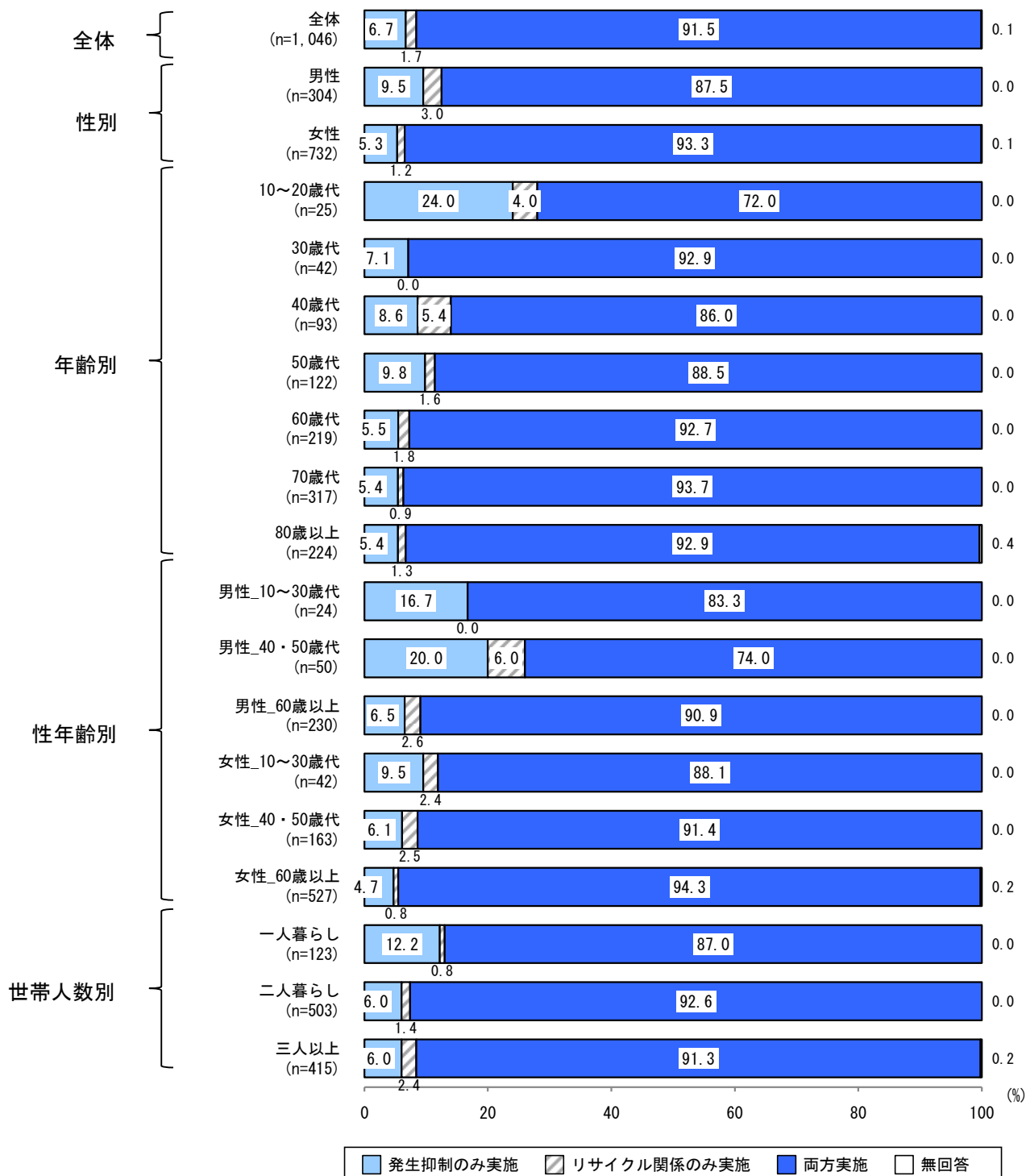
発生抑制のみ実施	● 食品の買いすぎや食べ残しを減らす ● 生ごみは水気を切ってから出す ● 詰め替え品の購入を心掛ける ● 生ごみをたい肥化する
リサイクル関係のみ実施	● フリーマーケットやバザー、リサイクルショップを活用する ● 古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す ● 玩具や子供服などを知人に譲る

ごみを減らすための具体的な取り組み・工夫の再分類②でみると「発生抑制のみ実施」は6.7%、「リサイクル関係のみ実施」は1.7%、「両方実施」は91.5%となっています。

性別でみると、女性の方が「両方実施」が高くなっています。年齢別では、10～20歳代では発生抑制のみ実施」が高い傾向にあります。

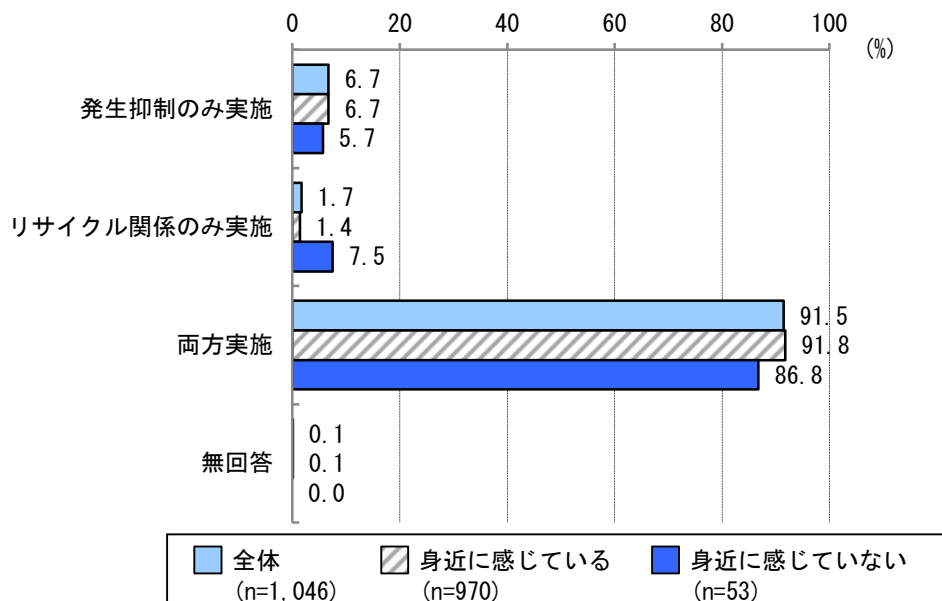
性年齢別でみると、男性の10～50歳代にかけて「発生抑制のみ実施」が高くなっています。

世帯人数別でみると、一人暮らしで「発生抑制のみ実施」が高くなっています。



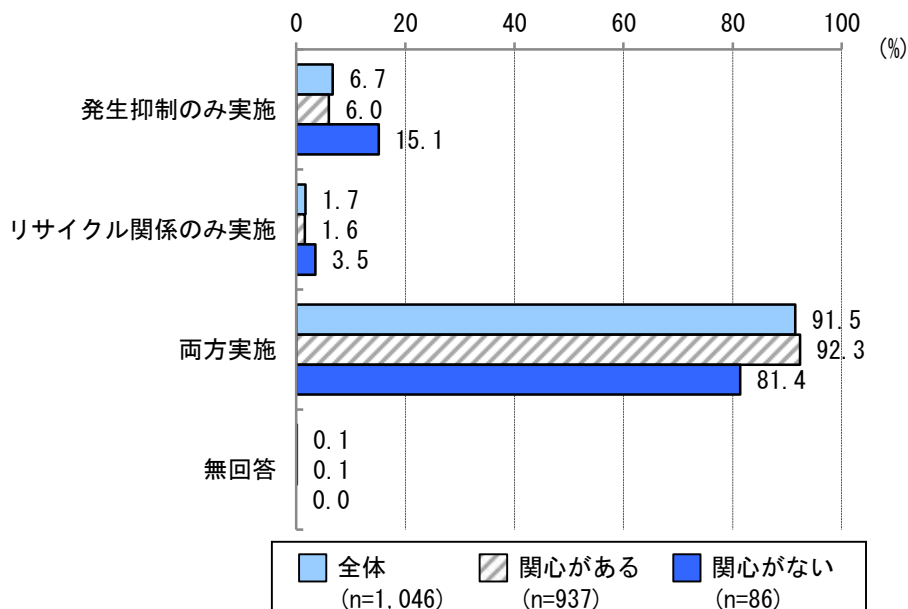
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別でみると、【身近に感じていない】方は、他に比べると「リサイクル関係のみ実施」の割合が高くなっています。



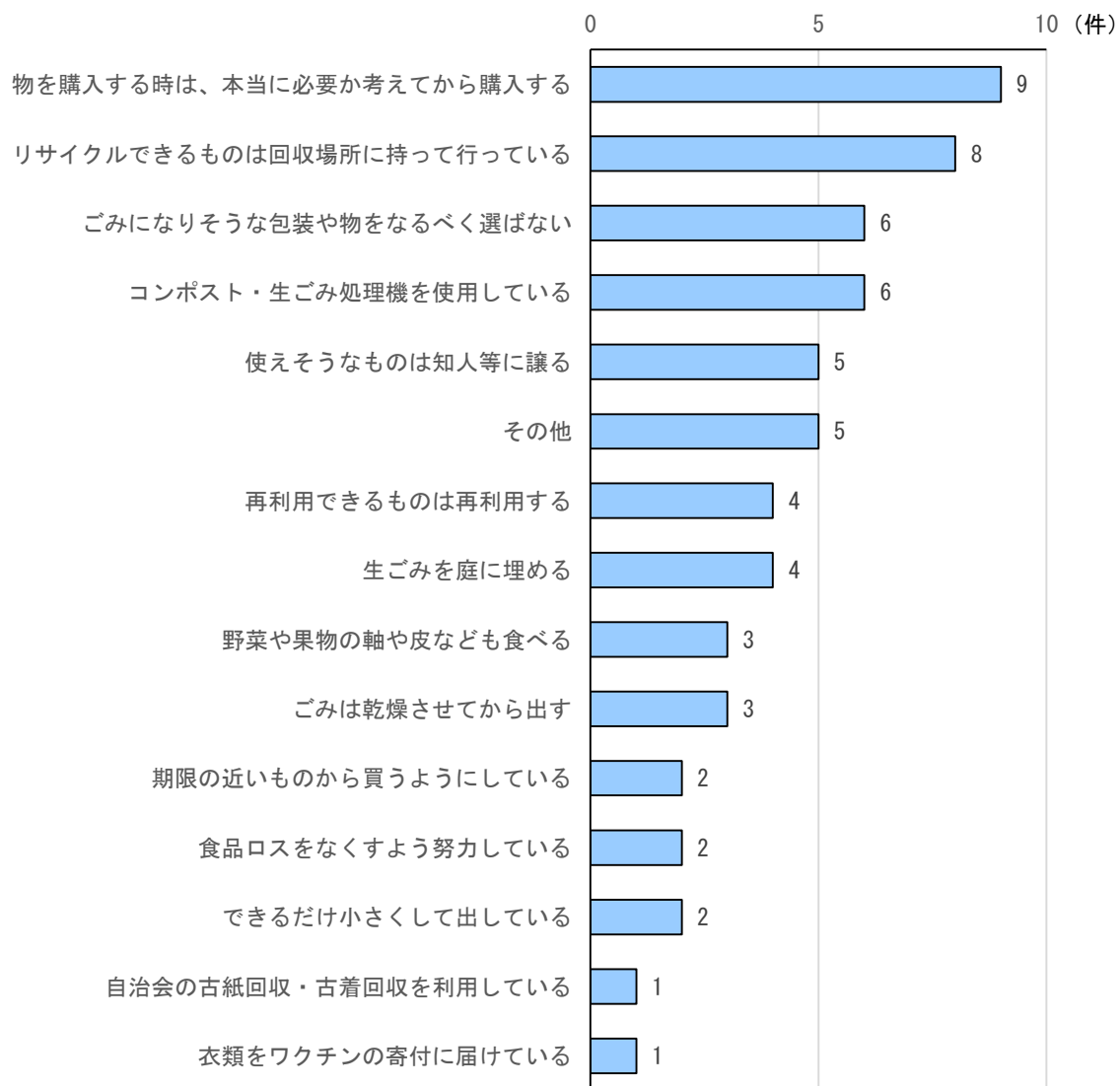
【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別でみると、【関心がない】方は、他に比べて「発生抑制のみ実施」の割合が高くなっています。



【問３－１ その他の内容】

ごみの減量で工夫していることについて、「その他」と回答した人の内容は、「物を購入する時は、本当に必要か考えてから購入する」が９件で最も多く、次いで「リサイクルできるものは回収場所に持って行っている」が８件、「ごみになりそうな包装や物をなるべく選ばない」「コンポスト・生ごみ処理機を使用している」がそれぞれ６件となっています。



2-1-2 ごみの減量に取り組むことができるか

問3-2 ごみを減らすことについて、これから取り組むことはできますか。

(○はひとつ)

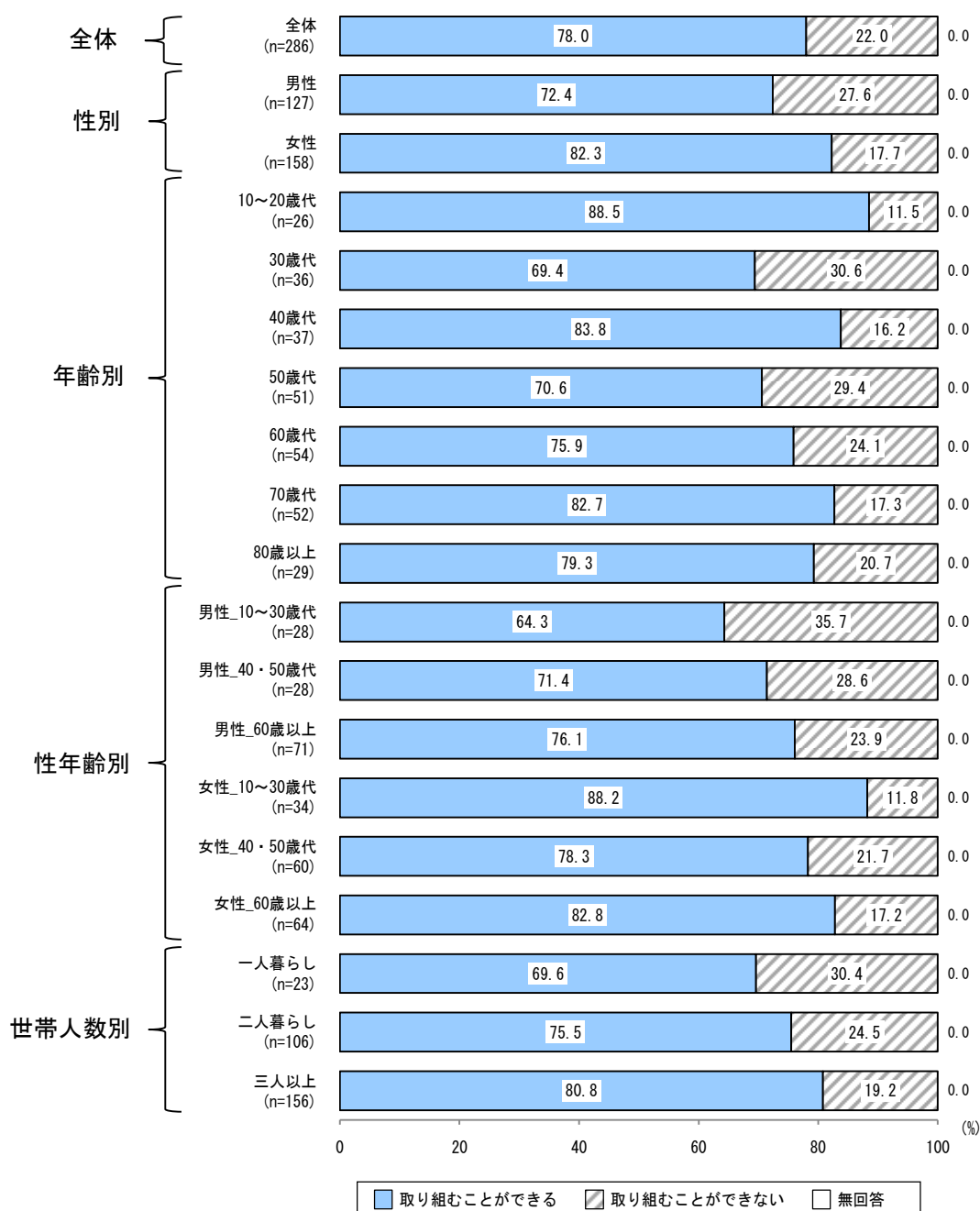
※問3-2は、問3で「いいえ」と回答した方のみ回答

全体では、「取り組むことができる」が78.0%、「取り組むことができない」が22.0%となっています。

性別では、女性より男性の方が、年齢別では『10～20歳代』で「取り組むことができる」が高くなっています。

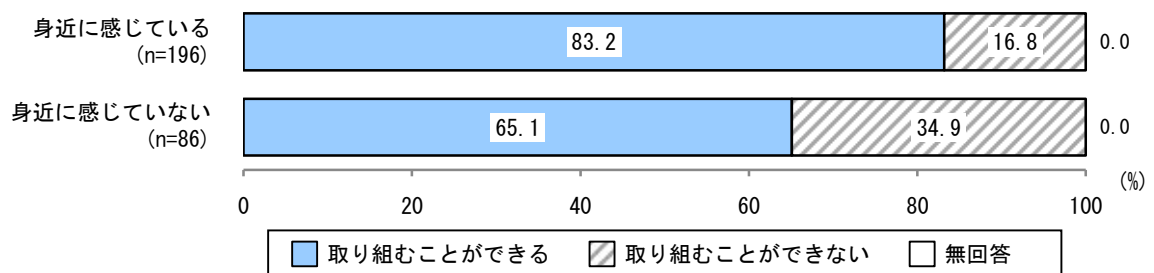
性年齢別では、男性は『60才以上』、女性は『10～30歳代』で「取り組むことができる」が高くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が多くなるにつれて「取り組むことができる」が高くなっています。



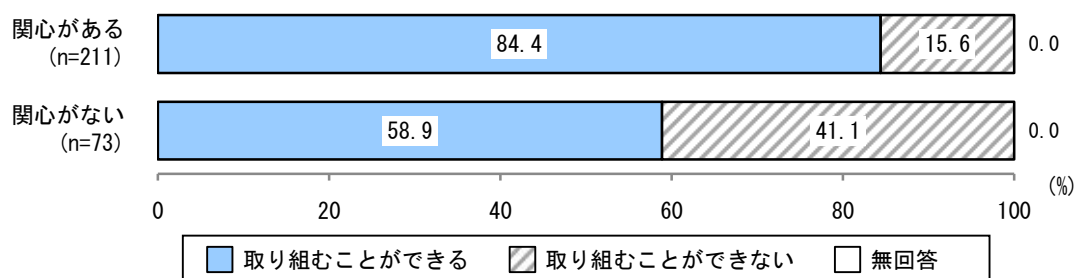
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別にみると、【身近に感じている】方が「取り組むことができる」割合が高くなっています。



【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別にみると、【関心がある】方が「取り組むことができる」割合が高くなっています。



2-1-3 ごみの減量についてできそうなこと

問3-3 ごみを減らすことについて、できそうなことを教えてください。

(○はいくつでも可)

※問3-3は、問3-2で「取り組むことができる」と回答した方のみ回答

全体では、「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」が76.7%で最も高く、次いで「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」が74.4%となっています。

性別では、男性は「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」、女性は「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」「詰め替え品の購入を心がける」が最も高くなっています。

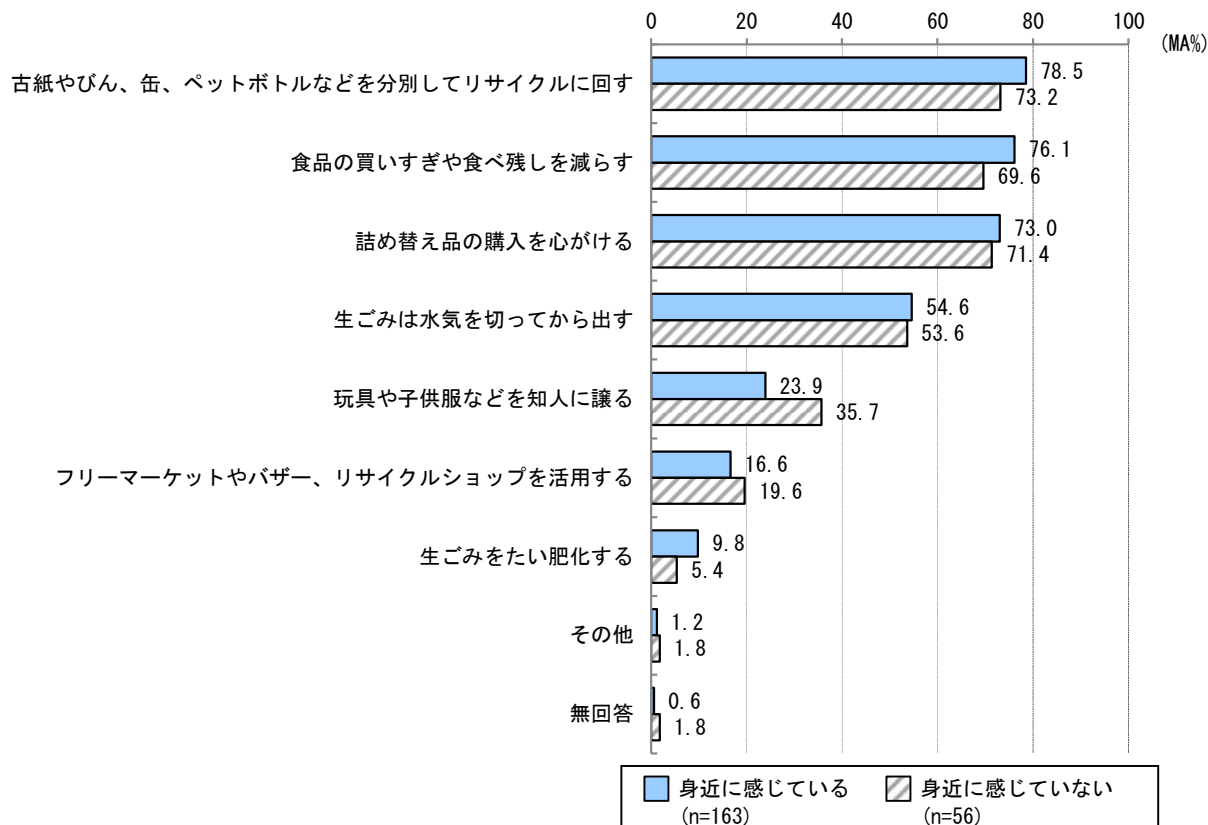
年齢別では、「フリーマーケットやバザー、リサイクルショップを活用する」が60歳以上は1割未満と低く、性年齢別では、性別にかかわらず年齢が高くなるにつれて「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」が高くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が多くなるにつれて「食品の買いすぎや食べ残しを減らす」の割合は低くなっている一方、「玩具や子供服などを知人に譲る」は高くなっています。

		古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す	食品の買いすぎや食べ残しを減らす	詰め替え品の購入を心がける	生ごみは水気を切ってから出す	玩具や子供服などを知人に譲る	フリーマーケット、リサイクルショップを活用する	生ごみをたい肥化する	その他	無回答
全 体 (n=223)		76.7	74.4	71.7	53.8	26.9	17.0	9.0	1.3	0.9
性別	男性 (n=92)	78.3	69.6	63.0	44.6	22.8	16.3	13.0	2.2	1.1
	女性 (n=130)	76.2	77.7	77.7	60.0	30.0	17.7	6.2	0.8	0.8
年齢別	10～20歳代 (n=23)	43.5	69.6	78.3	39.1	43.5	17.4	17.4	0.0	0.0
	30歳代 (n=25)	64.0	64.0	68.0	40.0	60.0	28.0	12.0	0.0	0.0
	40歳代 (n=31)	77.4	71.0	71.0	64.5	51.6	22.6	6.5	0.0	0.0
	50歳代 (n=36)	83.3	77.8	80.6	44.4	19.4	30.6	8.3	2.8	0.0
	60歳代 (n=41)	78.0	80.5	68.3	51.2	12.2	9.8	4.9	0.0	2.4
	70歳代 (n=43)	93.0	72.1	67.4	58.1	11.6	9.3	9.3	2.3	2.3
	80歳以上 (n=23)	82.6	82.6	69.6	78.3	8.7	4.3	8.7	4.3	0.0
性年齢別	男性_10～30歳代 (n=18)	50.0	55.6	61.1	38.9	44.4	33.3	11.1	0.0	0.0
	男性_40・50歳代 (n=20)	85.0	65.0	70.0	35.0	30.0	20.0	15.0	5.0	0.0
	男性_60歳以上 (n=54)	85.2	75.9	61.1	50.0	13.0	9.3	13.0	1.9	1.9
	女性_10～30歳代 (n=30)	56.7	73.3	80.0	40.0	56.7	16.7	16.7	0.0	0.0
	女性_40・50歳代 (n=47)	78.7	78.7	78.7	61.7	36.2	29.8	4.3	0.0	0.0
	女性_60歳以上 (n=53)	84.9	79.2	75.5	69.8	9.4	7.5	1.9	1.9	1.9
世帯人数別	一人暮らし (n=16)	68.8	87.5	68.8	43.8	12.5	12.5	6.3	0.0	0.0
	二人暮らし (n=80)	83.8	83.8	75.0	67.5	17.5	20.0	5.0	1.3	1.3
	三人以上 (n=126)	73.8	66.7	69.8	46.0	34.9	15.9	11.9	1.6	0.8

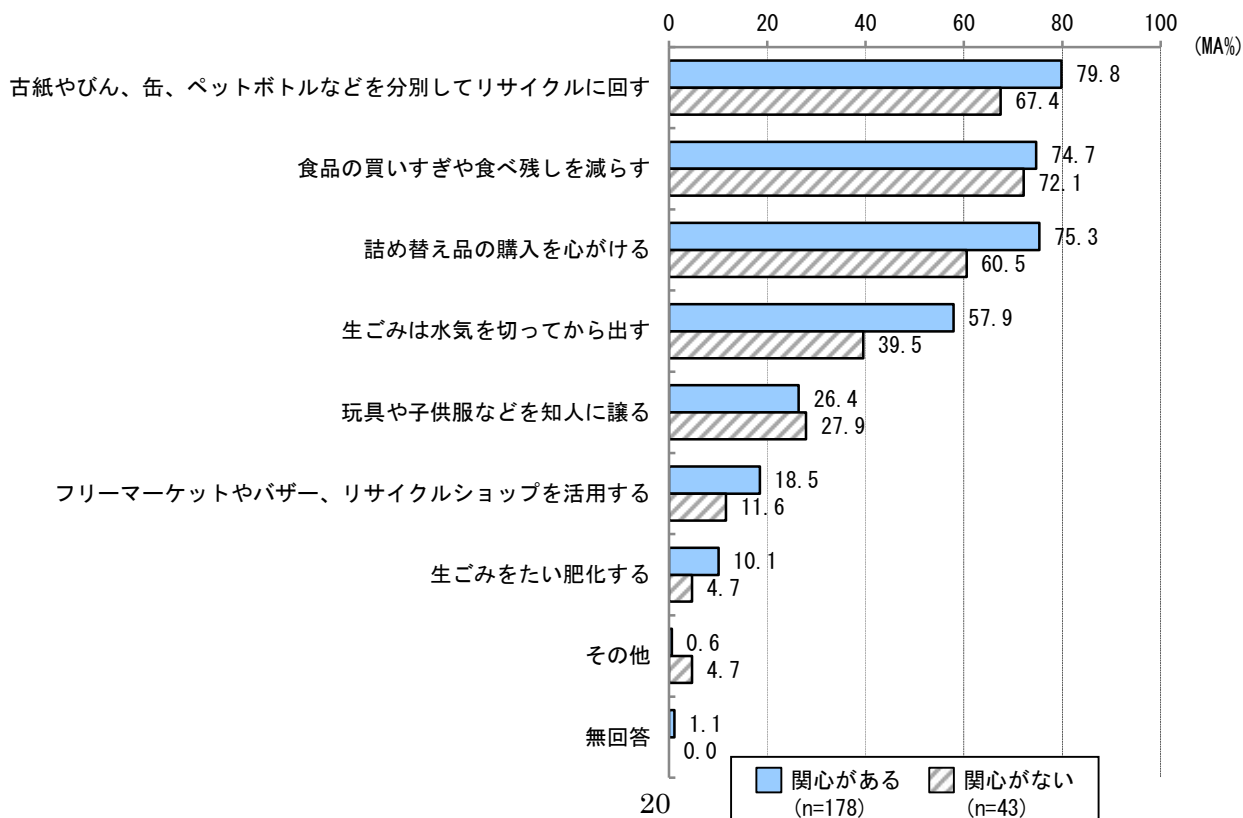
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別にみると、【身近に感じていない】方が「玩具や子供服などを知人に譲る」割合が高く、その他の項目と比べると取り組みやすいと感じています。



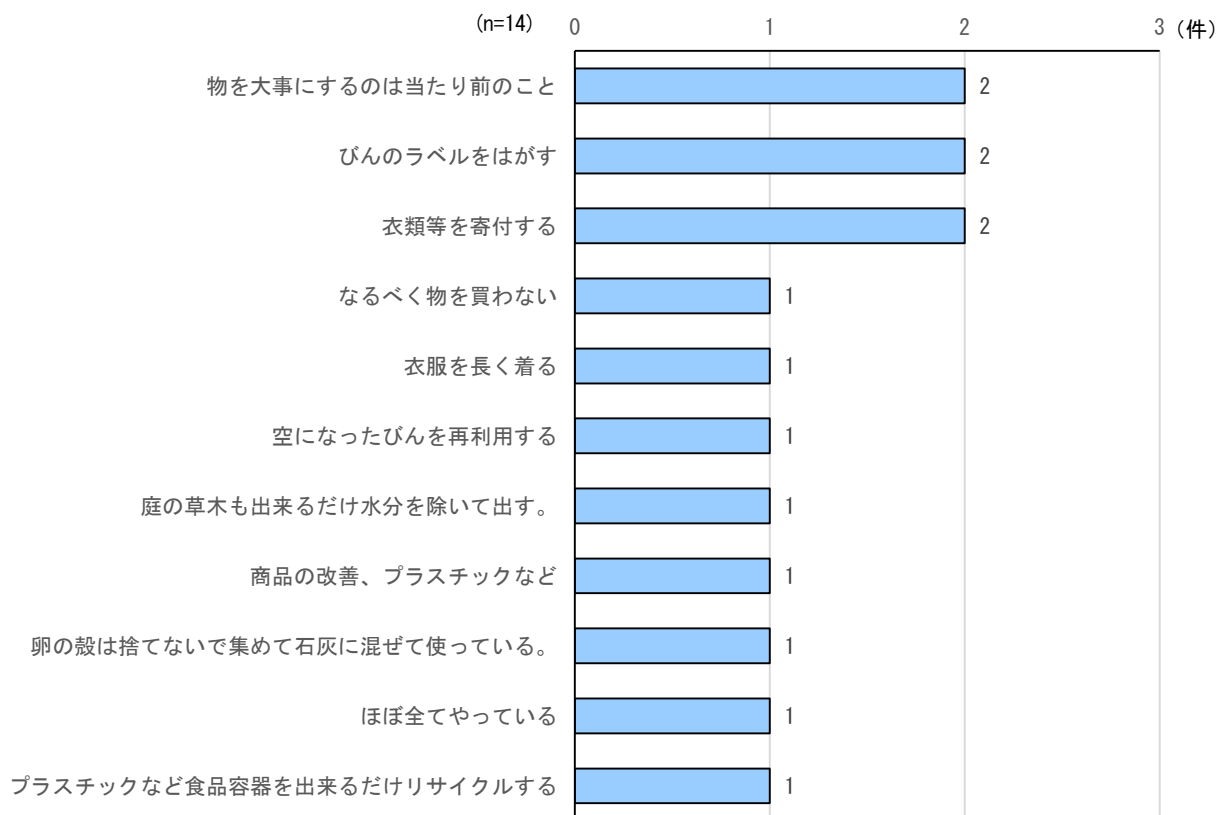
【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別にみると、【関心がない】方が「生ごみは水気を切ってから出す」、「詰め替え品の購入を心がける」、「古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す」割合が低く、特に取り組みにくいと感じています。



【問 3－3 その他の内容】

ごみの減量でできそうなことについて、「その他」と回答した人の内容は、「物を大事にするのは当たり前のこと」「びんのラベルをはがす」「衣類等を寄付する」がそれぞれ2件で最も多くなっています。



2-1-4 ごみの減量に取り組むことができない理由

問3-4 ごみを減らす取り組みができない理由を教えてください。

(○はいくつでも可)

※問3-4は、問3-2で「取り組むことができない」と回答した方のみ回答

全体では、「ごみを減らす方法が分からない」が34.9%で最も高く、次いで「減量は手間がかかる」が30.2%となっています。

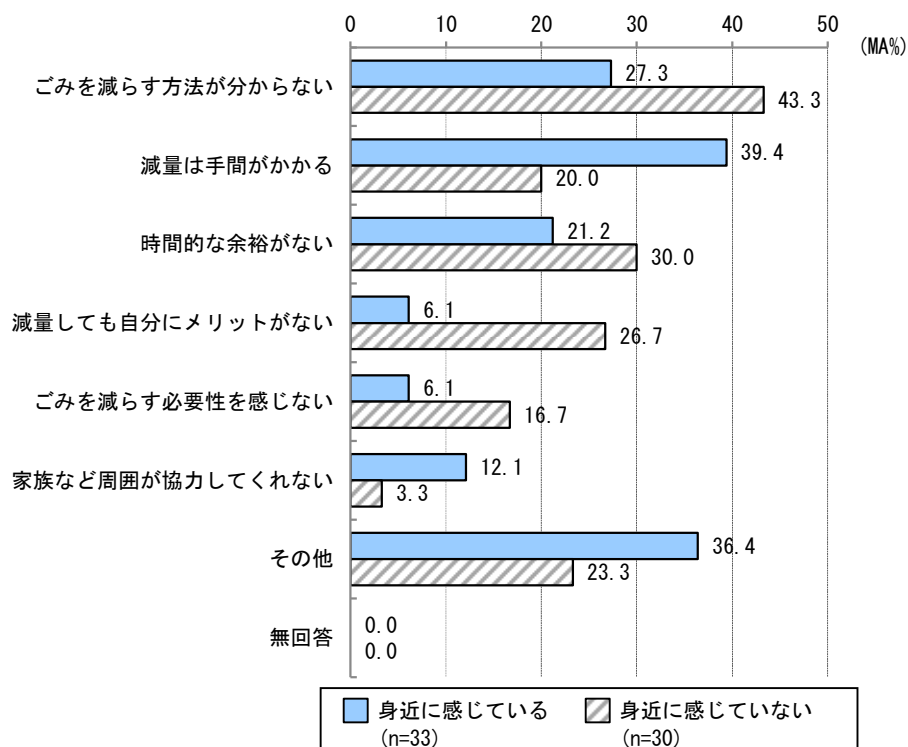
性別、性年齢別では、女性は「ごみを減らす必要性を感じない」と回答している方はいない一方で男性は2割が必要性的を感じておらず、特に男性のうち10～30歳代は4割と高くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が多くなるにつれて「減量しても自分にメリットがない」「家族など周囲が協力してくれない」が高くなっています。

		か ご み を 減 ら す 方 法 が 分 ら な い	減 量 は 手 間 が か か る	時 間 的 な 余 裕 が な い	リ 減 量 し て も 自 分 に メ リ ツ ト が な い	感 ご み を 減 ら す 必 要 性 を 感 じ な い	て 家 族 な ど 周 圍 が 協 力 し て く れ な い	そ の 他	無 回 答
全 体 (n=63)		34.9	30.2	25.4	15.9	11.1	7.9	30.2	0.0
性 別	男性 (n=35)	34.3	31.4	28.6	20.0	20.0	8.6	25.7	0.0
	女性 (n=28)	35.7	28.6	21.4	10.7	0.0	7.1	35.7	0.0
年 齢 別	10～20歳代 (n=3)	0.0	33.3	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=11)	18.2	45.5	27.3	27.3	27.3	9.1	18.2	0.0
	40歳代 (n=6)	83.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	50歳代 (n=15)	33.3	40.0	26.7	20.0	6.7	20.0	13.3	0.0
	60歳代 (n=13)	30.8	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	46.2	0.0
	70歳代 (n=9)	33.3	22.2	44.4	11.1	11.1	11.1	44.4	0.0
	80歳以上 (n=6)	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
性 年 齢 別	男性_10～30歳代 (n=10)	0.0	40.0	40.0	30.0	40.0	10.0	20.0	0.0
	男性_40・50歳代 (n=8)	62.5	37.5	12.5	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0
	男性_60歳以上 (n=17)	41.2	23.5	29.4	5.9	11.8	5.9	41.2	0.0
	女性_10～30歳代 (n=4)	50.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性_40・50歳代 (n=13)	38.5	38.5	30.8	0.0	0.0	15.4	23.1	0.0
	女性_60歳以上 (n=11)	27.3	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	63.6	0.0
人 数 別 世 帯	一人暮らし (n=7)	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1	0.0
	二人暮らし (n=26)	46.2	30.8	26.9	15.4	15.4	7.7	23.1	0.0
	三人以上 (n=30)	33.3	30.0	26.7	16.7	6.7	10.0	30.0	0.0

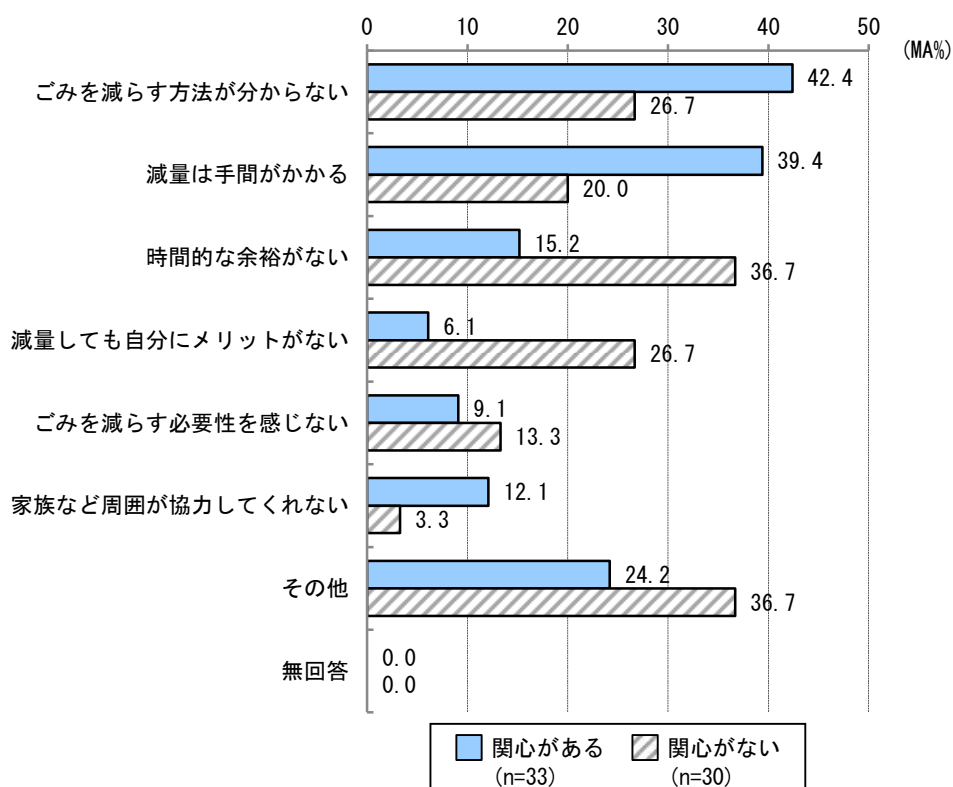
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別にみると、【身近に感じている】方は「減量は手間がかかる」、【身近に感じていない】方は「ごみを減らす方法が分からない」が最も高くなっています。



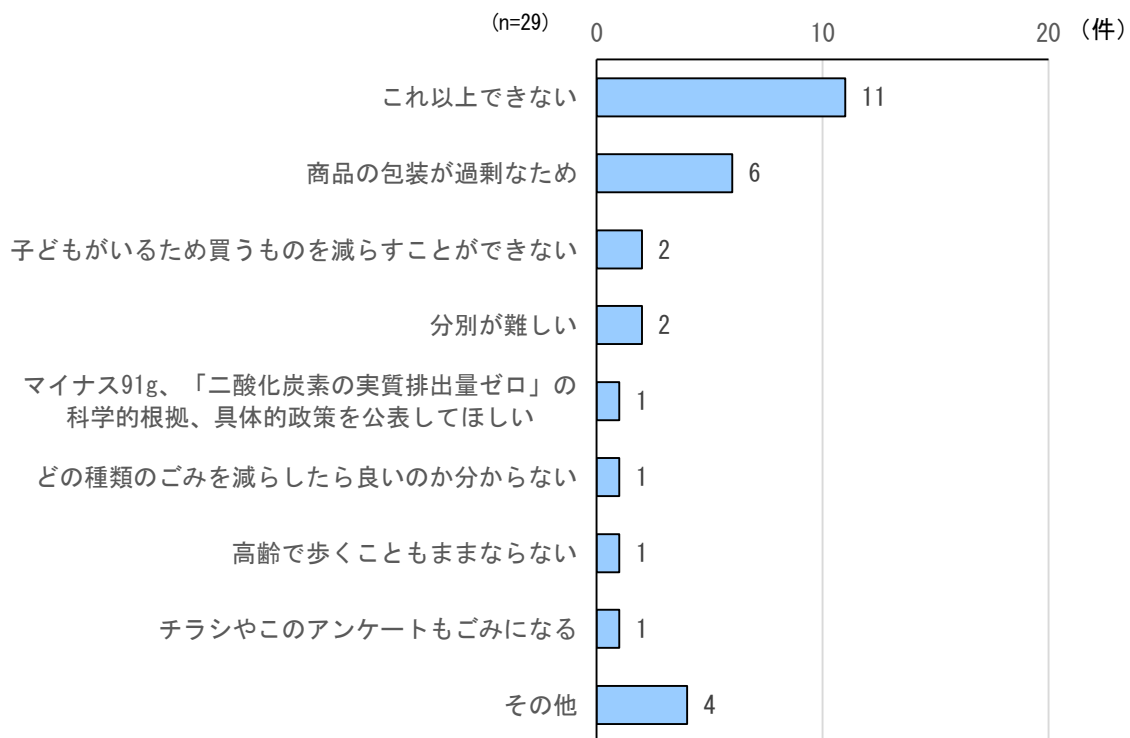
【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別にみると、【関心がある】方は「ごみを減らす方法が分からない」、【関心がない】方は「時間的な余裕がない」が最も高くなっています。



【問 3－4 その他の内容】

ごみの減量に取り組むことができない理由として、「その他」と回答した人の内容は、「これ以上できない」が 11 件で最も多く、次いで「商品の包装が過剰なため」が 6 件、「子どもがいるため買うものを減らすことができない」「分別が難しい」が 2 件となっています。



2-2 リサイクルできるごみを捨てることがあるか

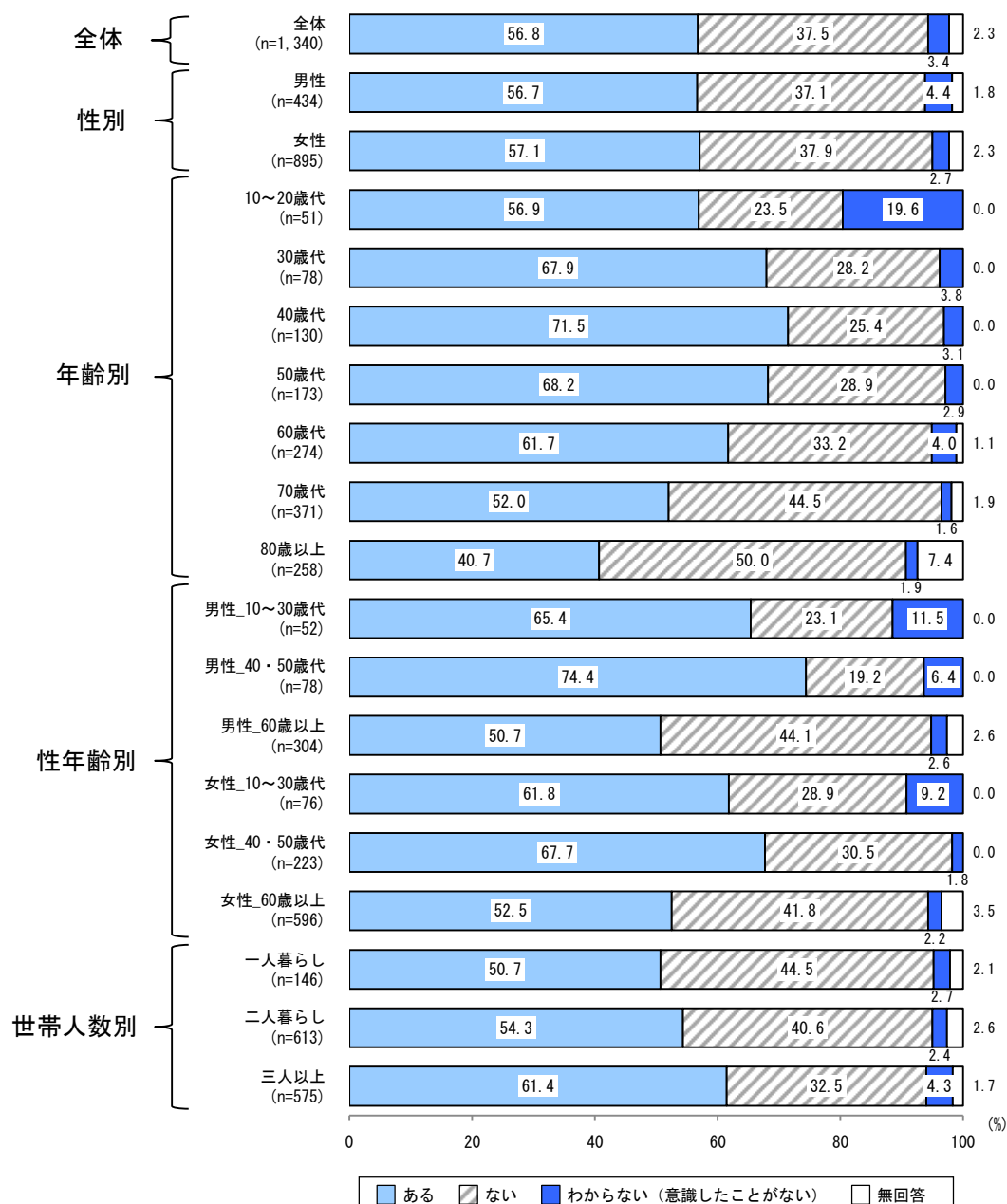
問4 あなたは、燃やすごみの中に下記の①～⑤のようなリサイクルできるものを捨てることがありますか。(○はひとつ)

- ①プラマークの付いているお菓子の袋や菓のプラケースなどの容器や包装
- ②新聞紙や雑誌、裁断した紙くず、お菓子の箱などの紙類
- ③ペットボトルの識別表示マークのついているボトル
- ④牛乳などの紙パックなど
- ⑤衣類、タオル・シーツ・カーテンなどの布類

全体では、「ある」が56.8%で最も高く、次いで「ない」が37.5%となっています。

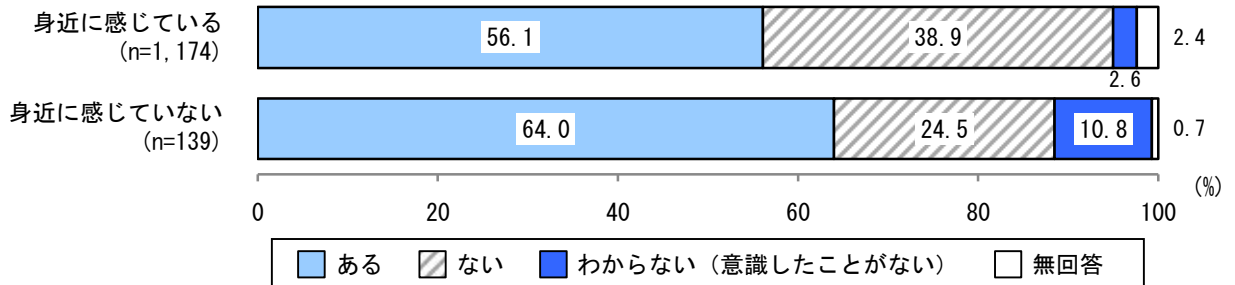
性別による差はみられず、年齢別では「わからない（意識したことがない）」は『10～20歳代』が19.6%と高く、性年齢別では、性別にかかわらず10～50歳代は「ある」が高く、60歳以上は低くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が多くなるにつれて「ある」が高くなっています。



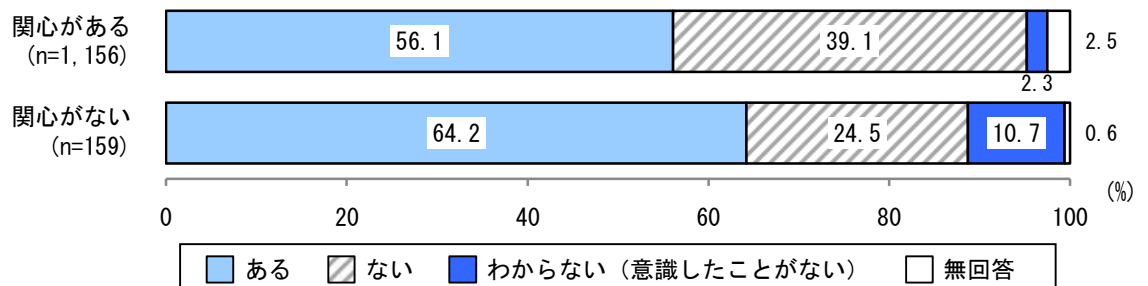
【ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別】

ごみの減量の必要性を身近に感じている程度別にみると、【身近に感じていない】方が「ある」が高くなっています。



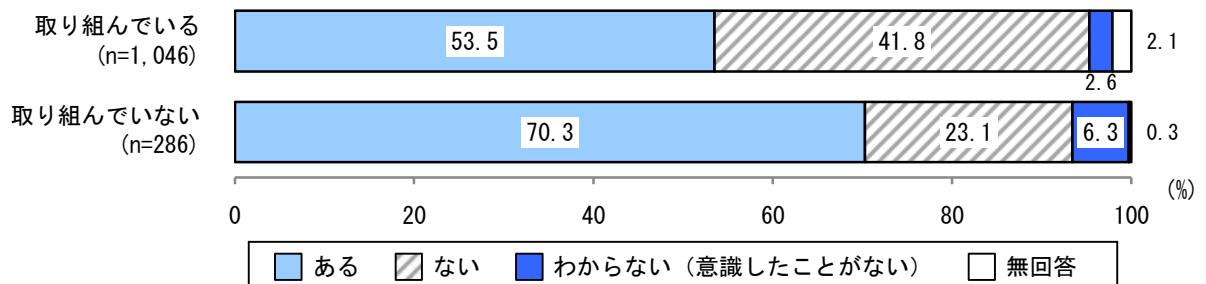
【二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別】

二酸化炭素の実質排出量ゼロへの関心度別にみると、【身近に感じていない】方が「ある」が高くなっています。



【ごみの減量への取り組み別】

ごみの減量への取り組み別にみると、【取り組んでいない】方が「ある」が高くなっています。



3 ごみに関する困りごと

3-1 ごみの排出方法や収集に関して困っていることがあるか

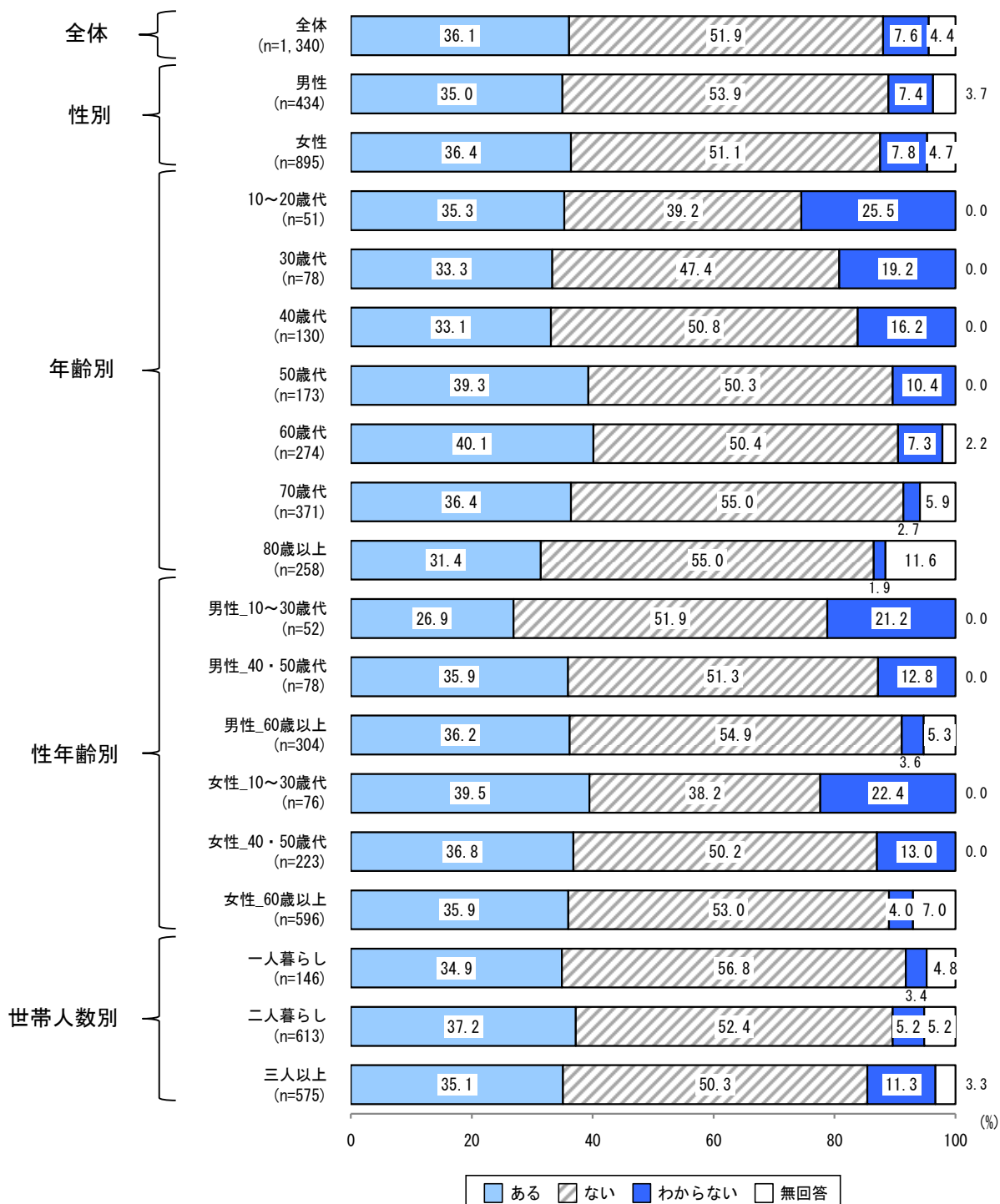
問5 ごみの排出方法や市の収集に関して困っていることはありますか。(〇はひとつ)

全体では、「ない」が51.9%で最も高く、次いで「ある」が36.1%となっています。

性別による差はみられず、年齢別では、50～60歳代で「ある」が他の年齢より高くなっています。

性年齢別では10～30歳代で、女性の方が男性よりも困っていることがある割合が高くなっています。

世帯人数による大きな差はみられませんでした。



3-1-1 ごみの排出方法や収集方法で困っていること

問5-1 ごみの排出方法や市の収集について一番困っていることはどれですか。

(○はひとつ)

※問5-1は、問5で「ある」と回答した方のみ回答

※複数選択されている方が多いため、○はいくつでも可として集計

全体では、「ごみステーションがカラスなどにあらされる」が27.9%で最も高く、次いで「分別方法が分かりにくい」が15.7%となっています。

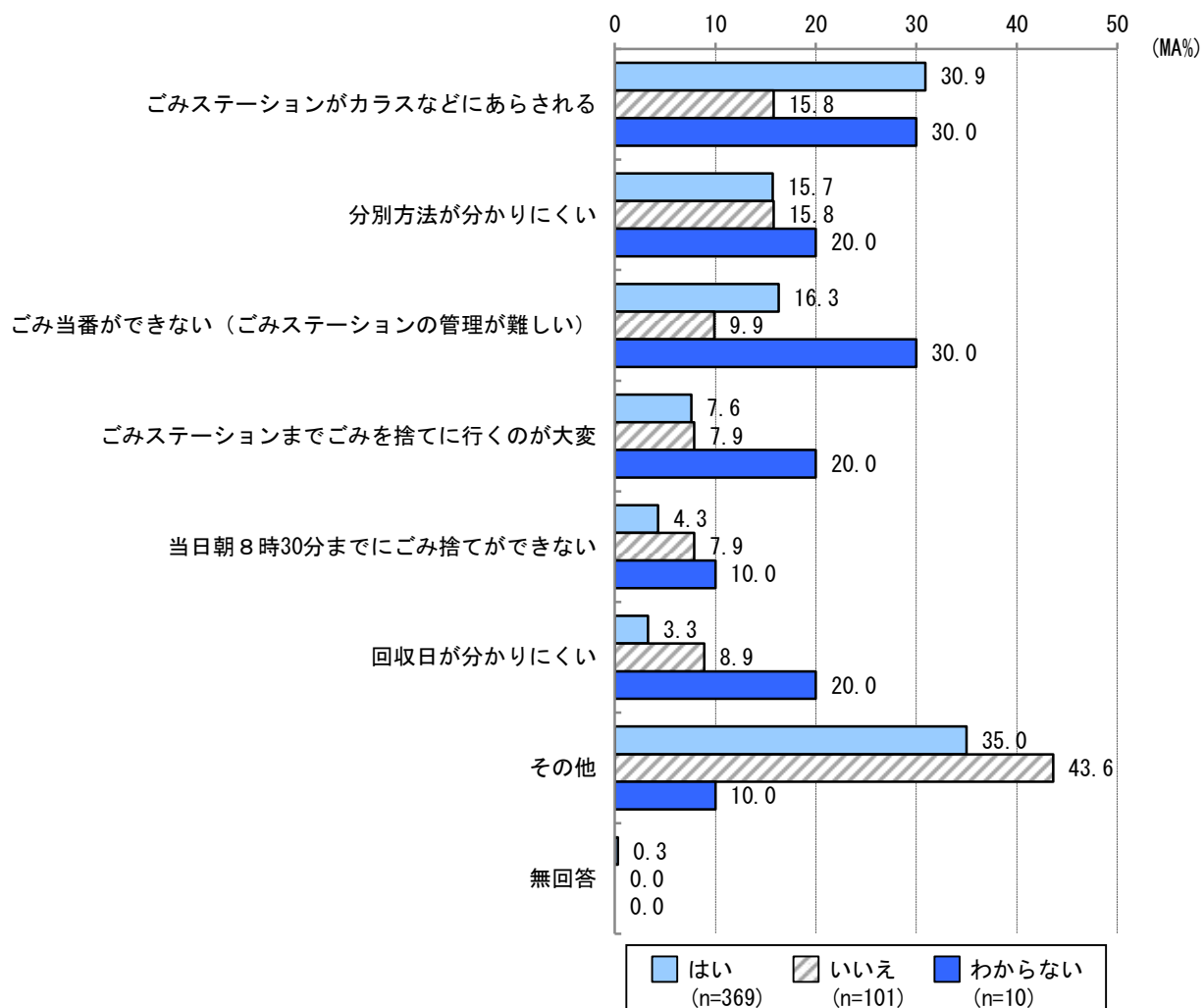
性別による大きな差はみられず、年齢別では、他の年齢と比べて『10～20歳代』は「回収日が分かりにくい」、『30歳代』は「当日朝8時30分までにゴミ捨てができない」が高く、性年齢別では、性別にかかわらず年齢が高くなるにつれて「ごみステーションがカラスなどにあらされる」が高くなっています。

世帯人数別では、世帯人数が少ないほど「ごみステーションまでゴミを捨てに行くのが大変」が高くなっています。

		ラ ゴ ス ミ ス テ ー シ ョ ン が カ ラ ス な ど に あ ら さ れ る	い 分 別 方 法 が 分 か り に く い	管 理 が 難 し い (ご み ス テ ー シ ョ ン の ま わ り の ご み の 捨 て が で き な い)	大 ご み を ス テ ー シ ョ ン の ま わ り に 捨 て る の が 大 変	に 当 日 朝 8 時 3 0 分 ま で に ご み を 捨 て る の が で き な い	回 収 日 が 分 か り に く い	そ の 他	無 回 答
全 体 (n=484)		27.9	15.7	15.3	7.9	5.2	4.8	36.4	0.2
性 別	男性 (n=152)	25.0	18.4	17.8	6.6	5.3	5.3	38.2	0.0
	女性 (n=326)	29.1	14.7	13.8	8.3	5.2	4.6	35.6	0.3
年 齢 別	10～20歳代 (n=18)	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	16.7	33.3	0.0
	30歳代 (n=26)	7.7	23.1	11.5	7.7	11.5	3.8	38.5	0.0
	40歳代 (n=43)	20.9	16.3	9.3	2.3	0.0	4.7	46.5	0.0
	50歳代 (n=68)	11.8	20.6	19.1	1.5	5.9	1.5	41.2	0.0
	60歳代 (n=110)	27.3	15.5	10.9	10.0	5.5	7.3	40.9	0.0
	70歳代 (n=135)	42.2	14.8	14.1	8.1	2.2	3.7	28.9	0.0
	80歳以上 (n=81)	30.9	12.3	23.5	13.6	9.9	3.7	33.3	1.2
性 年 齢 別	男性_10～30歳代 (n=14)	7.1	28.6	14.3	7.1	0.0	7.1	35.7	0.0
	男性_40・50歳代 (n=28)	21.4	7.1	10.7	3.6	7.1	0.0	50.0	0.0
	男性_60歳以上 (n=110)	28.2	20.0	20.0	7.3	5.5	6.4	35.5	0.0
	女性_10～30歳代 (n=30)	10.0	13.3	13.3	6.7	13.3	10.0	36.7	0.0
	女性_40・50歳代 (n=82)	13.4	23.2	15.9	1.2	2.4	3.7	41.5	0.0
	女性_60歳以上 (n=214)	37.9	11.7	13.1	11.2	5.1	4.2	33.2	0.5
人 数 別 世 帯	一人暮らし (n=51)	17.6	7.8	19.6	21.6	3.9	7.8	39.2	0.0
	二人暮らし (n=228)	33.8	18.9	14.9	8.3	4.8	3.5	35.5	0.4
	三人以上 (n=202)	23.3	14.4	14.4	4.0	5.9	5.4	36.6	0.0

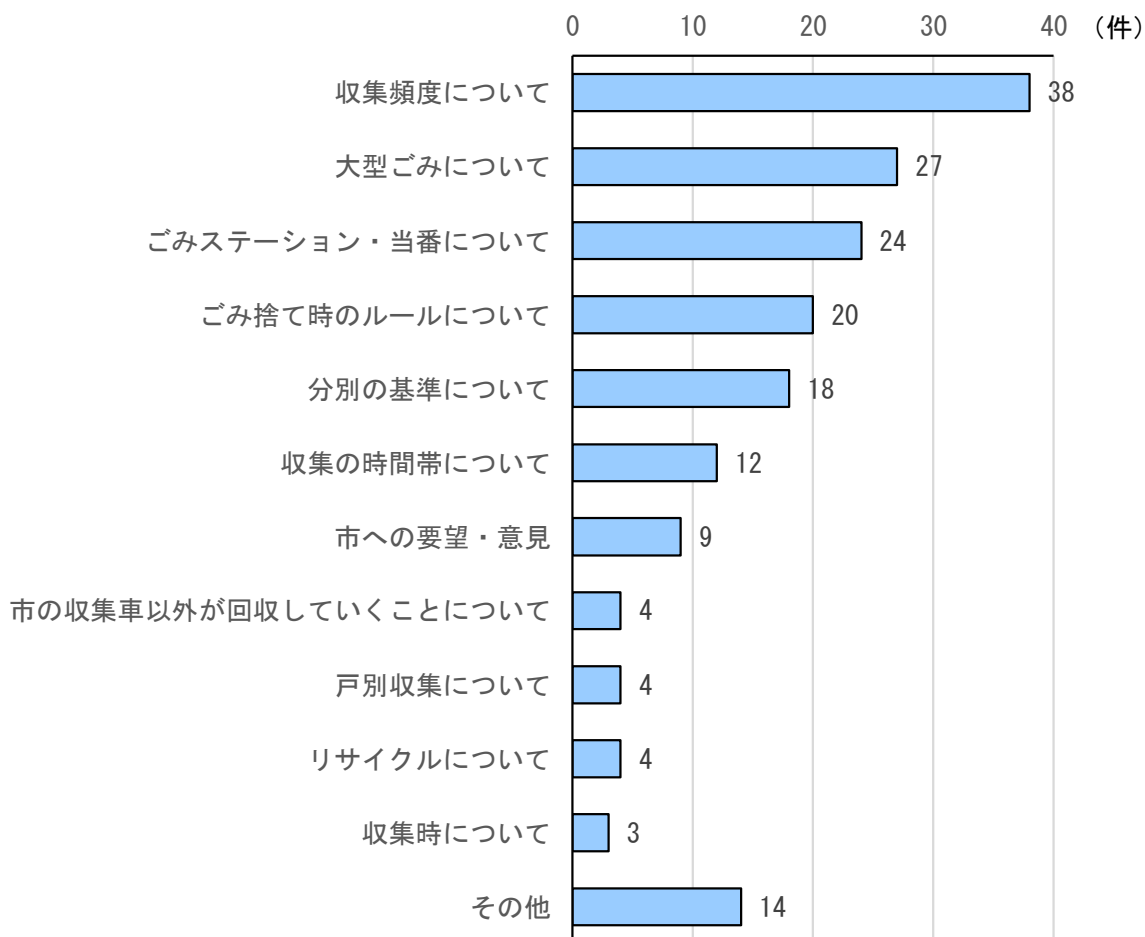
【ごみステーションの当番制の有無別】

回答者が利用しているごみステーションの当番制の有無別にみると、「ごみステーションがカラスなどにあらされる」は【はい（当番制である方）】が最も高くなっています。



【問５－１ その他の内容】

ごみの排出方法や市の収集で困っていることについて、「その他」と回答した人の内容は、「収集頻度について」が38件で最も多く、次いで「大型ごみについて」が27件、「ごみステーション・当番について」が24件となっています。



※その他の意見を一部抜粋しています。

◆収集頻度について（38 件）

内容
収集回数が多いので、1 回に 2～3 種回収してほしい。
びんや缶の収集が月 1 回であるため困っている。
紙、布の収集日が少ない。

◆大型ごみについて（27 件）

内容
粗大ごみのシールの購入方法など、出し方が分からない。
大型ごみ（40cm 以上）は出せないの、基準をゆるめてほしい。
粗大ごみの回収は有料なのでなかなか捨てられない。

◆ごみステーション・当番について（24 件）

内容
ごみステーションのリーダーがいないので、当番表の作成や設備が古くなった時など、自主的にやらざるを得ない。
高齢者が増えて当番制では立ち行かなくなると思うので、ごみステーションの管理をどうしていくのか懸念している。
住んでいる地域が当番制ではなく、同じ人が準備や片付けを行っているが、仕事をしている人や比較的若い人などの協力が得にくいことに困っている。
自治会加入者と非加入者との協力がうまくいかない。
当番をしない人が多く不公平である。

◆ごみ捨て時のルールについて（20 件）

内容
分別されておらず、回収されないことがある。
回収日を守らない人がいる。
不法投棄があり困っている。

◆分別の基準について（18 件）

内容
ほとんどのプラスチック製食品容器は汚れや臭いが取れず、どの程度が燃えるごみなのか分からない。
分別するものが多くて分かりにくい。
有害ごみが分かりにくい。

◆収集の時間帯について（12 件）

内容
早朝のごみ捨てができない&カラス対策のため夜間収集にしてほしい。
風が強くてプラスチックごみの袋が転がり、中身が飛散するので、早く来てほしい。
収集される時間が遅い。

◆市への要望・意見（9 件）

内容
大量の落ち葉がごみの 2/3 に相当し、道路の並木は管理不十分で大変迷惑している。
西宮市のように網かごの購入に補助を出して、ネットが簡単に出せるようにしてほしい。
居住するごみステーションではないが、カラスが引きずりだして道に散乱しているごみステーションを見かけるので、何か対策がないか。
公園のごみ箱を撤去せず細分化してごみを集めて資源にするステーションを設置してほしい。
きんたくんの回収音を変えてほしい。

◆市の収集車以外が回収していくことについて（４件）

内容
市の回収車が来る前にアルミ缶・不燃物を持ち出す軽トラックや自転車の人がいる。
小型電気製品等を出すと、変な回収業者が来て持って行くだけでなく、袋を破ったり汚していつたりすることがある。

◆戸別収集について（４件）

内容
体調不良でゴミステーションまで行けないので、戸別収集にしてほしい。
ゴミ当番の日は当日朝６時までにゴミネットを出さなければならず、大変なので戸別収集にしてほしい。

◆リサイクルについて（４件）

内容
居住しているマンションは分別したものも燃やすゴミと一緒にされるので、リサイクルに協力したくてもできない。
基準に満たないため燃やすゴミにまわさざるを得ないのでもったいない。

◆収集時について（３件）

内容
収集車の音が聞こえづらく、収集済だったことが何度もある。
びんの回収時の音が激しい。
時々収集漏れがある。

◆その他（１４件）

内容
時々出る収集できないゴミ（石ころや割れたブロック、粘土など）が家にたまり困っている。
朝早く出掛けなくてはならない時にごみを出せない。
ゴミステーションまでが遠くて困っている。
他の自治体とバラバラで迷う時がある。
雨天の日に困る。
今は大丈夫だが高齢になると重くて大変になると思う。

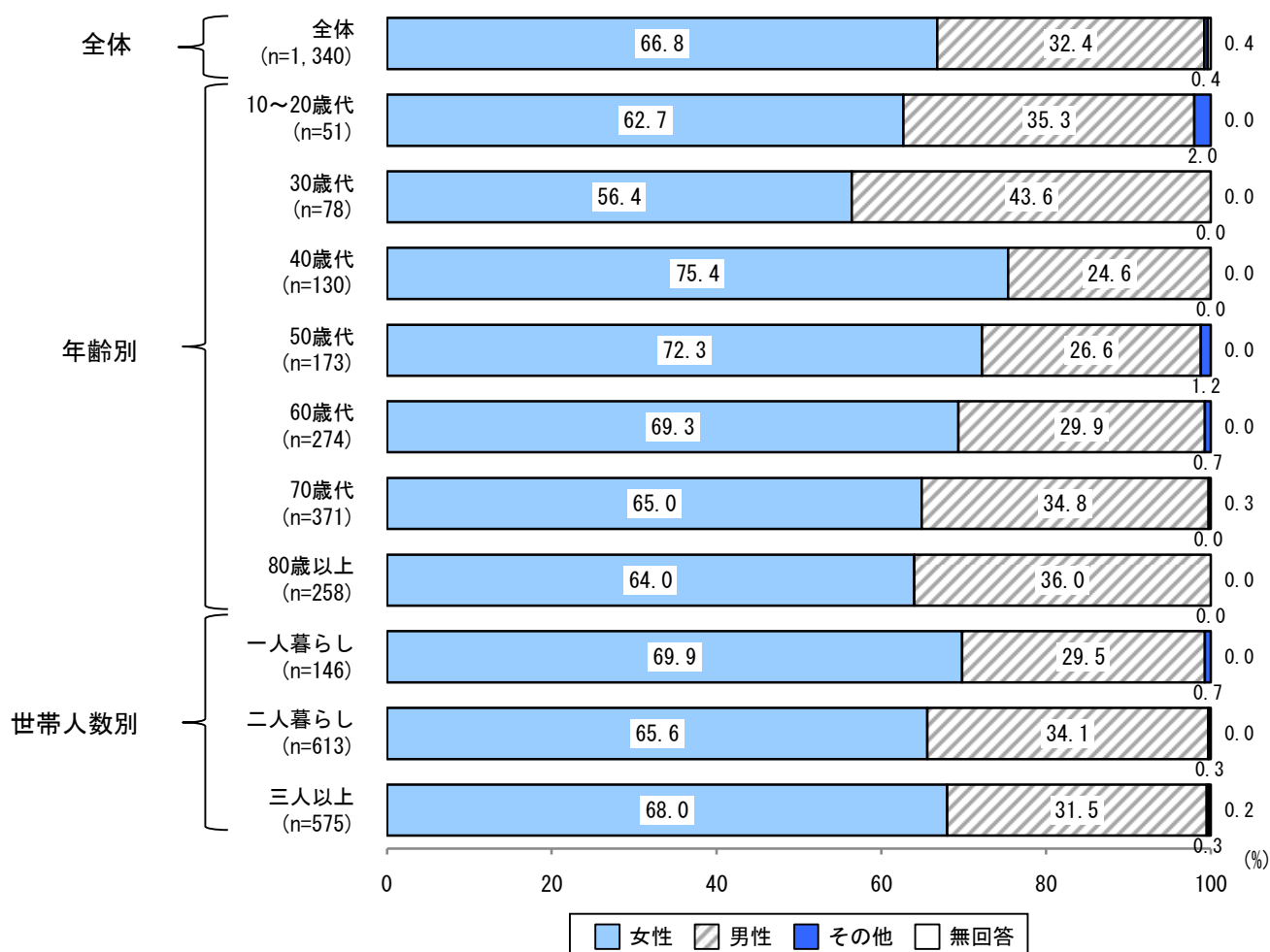
4 回答者について

4-1 性別

問6-A あなたの性別をお聞きます。(○はひとつ)

全体では「女性」が66.8%で最も高く、次いで「男性」が32.4%となっています。

年齢別では、「女性」は『40歳代』以降減少傾向にあり、世帯人数による大きな差はみられませんでした。

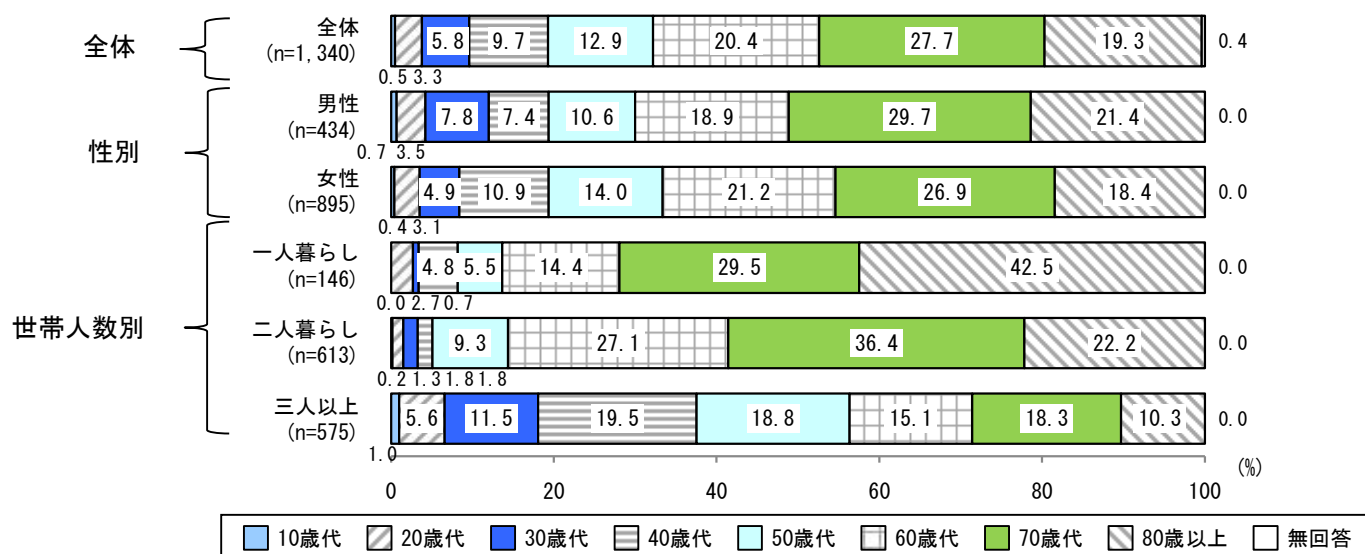


4-2 年齢

問6-B あなたの年代をお聞きます。〔満年齢（※令和6（2024）年4月1日現在）〕
（○はひとつ）

全体では、「70歳代」が27.7%で最も高く、次いで「60歳代」が20.4%となっています。

性別では、男性の方が女性よりも70歳代以上の割合が高く、世帯人数別では、二人以下の世帯は60歳以上が8割を占めていますが、世帯人数が多くなるほど10～50歳代の割合が高くなっています。

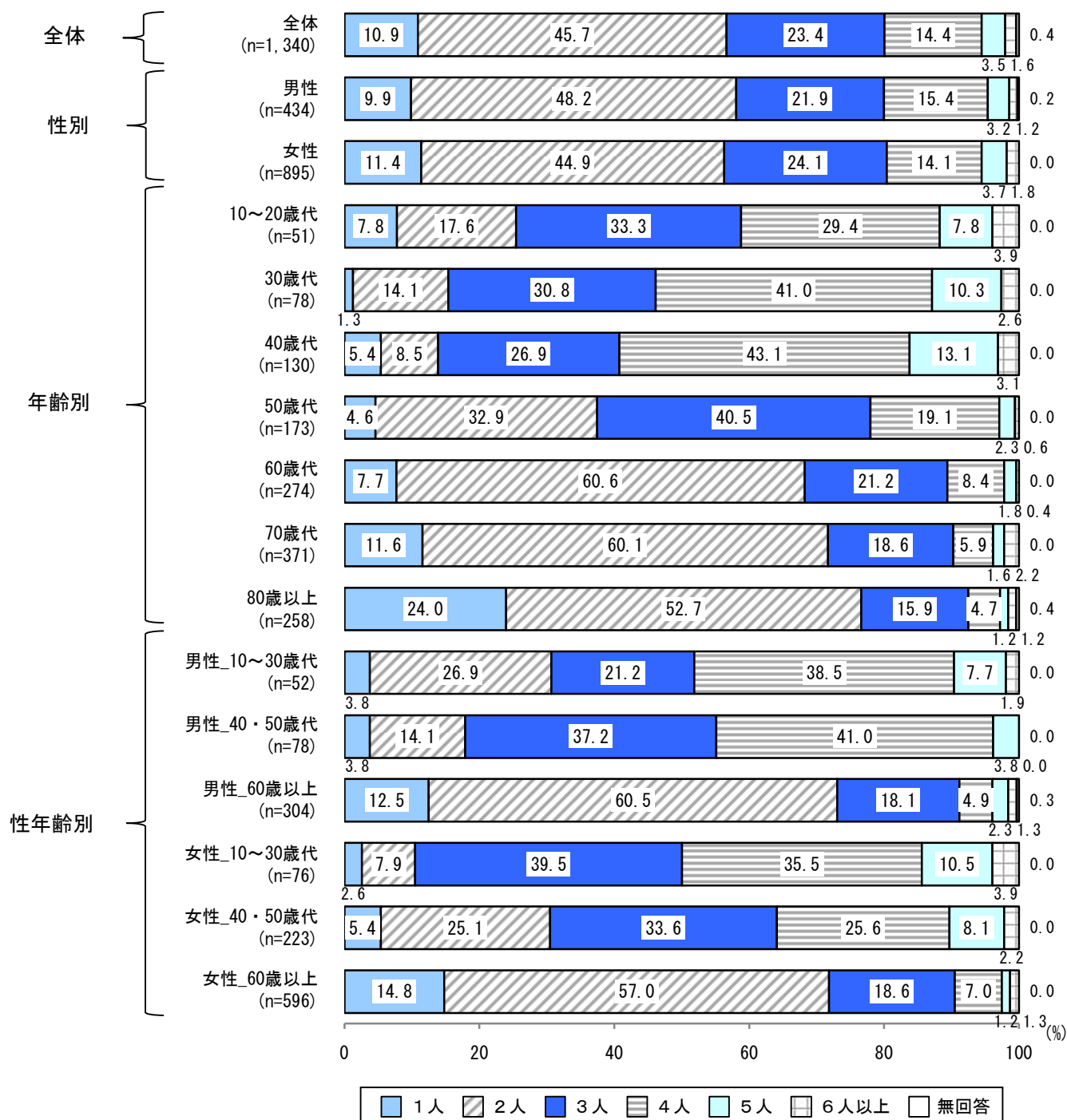


4-3 同居人数

問6-C あなたの家は、何人住まいですか。(○はひとつ)

全体では、「2人」が45.7%で最も高く、次いで「3人」が23.4%となっています。

性別による差はみられず、年齢別、性年齢別では、性別にかかわらず10～50歳代は3人以上の住まいの方が多く、60歳以上は「2人」が5割以上を占めています。



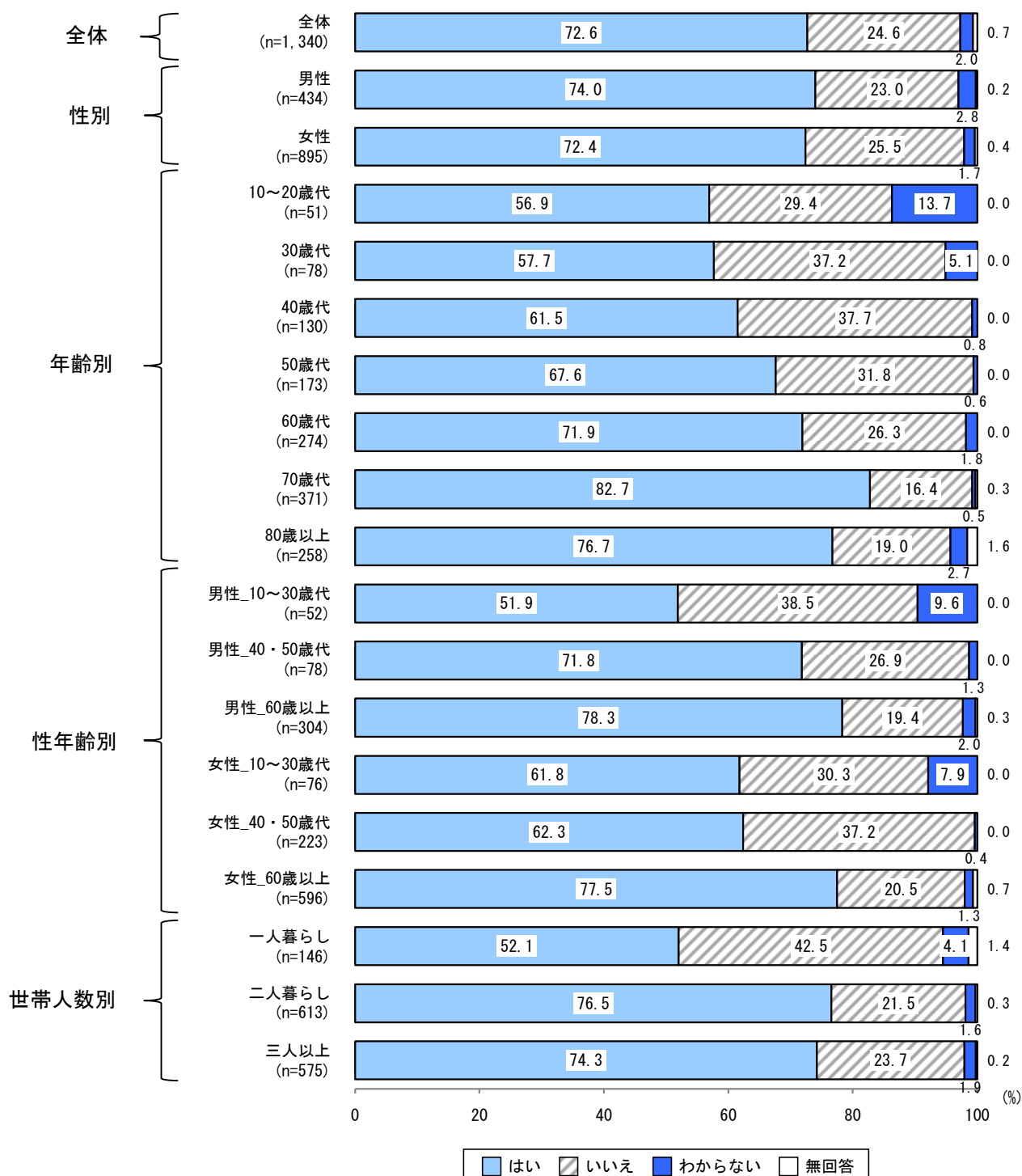
4-4 ごみステーションの当番制の有無

問6-D あなたが利用しているごみステーションの管理は、ごみ当番制ですか。
(○はひとつ)

全体では、「はい」が72.6%で最も高く、次いで「いいえ」が24.6%となっています。

性別による差はみられず、年齢別、性年齢別では、性別にかかわらず概ね年齢が高くなるにつれてごみステーションが当番制である割合が高くなっています。

世帯人数別では、『一人暮らし』の世帯が5割、二人以上の世帯は7割以上が当番制であると回答しています。

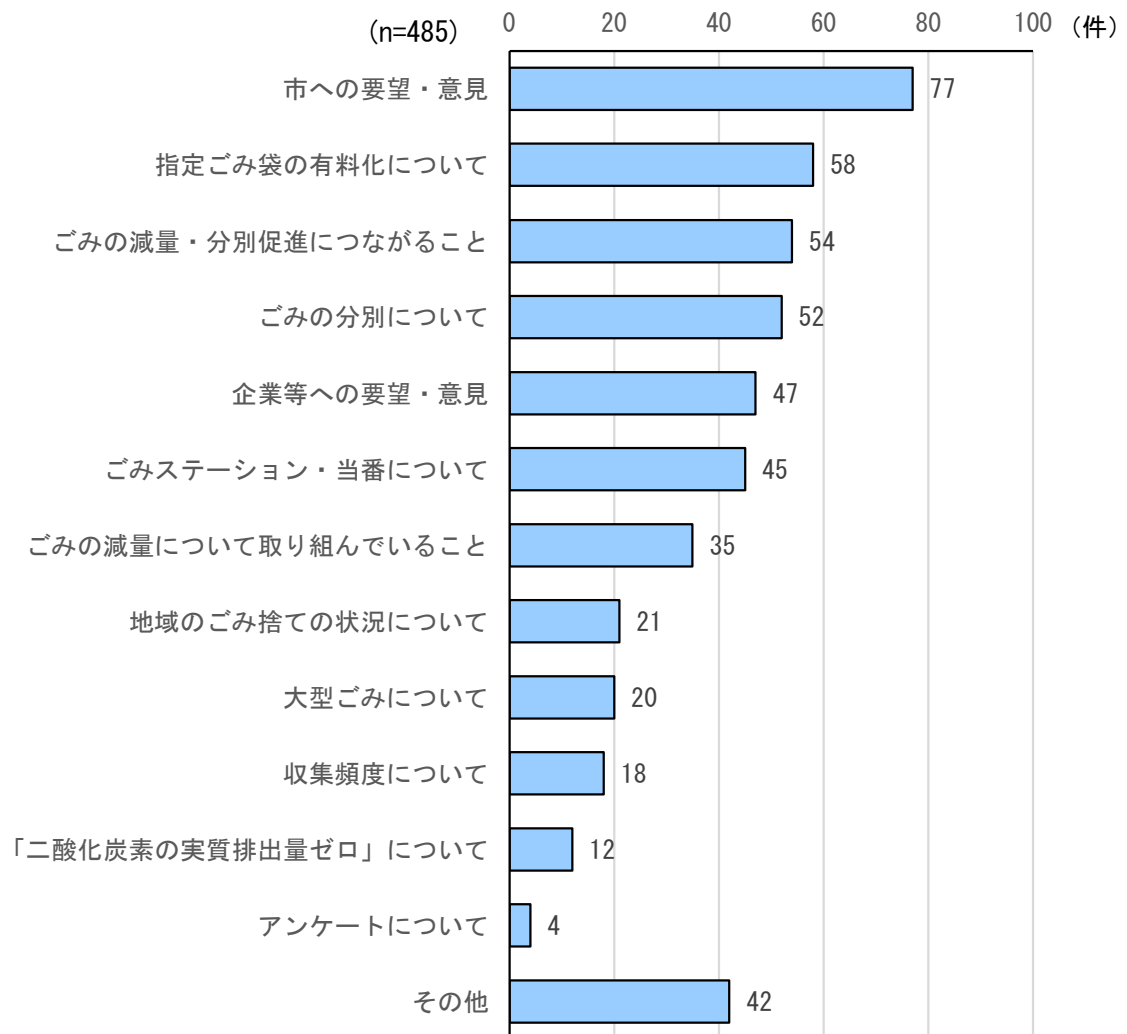


5 自由意見

5-1 ごみの減量に向けての意見・要望

問7 最後に、ごみの減量に向けてご意見やご要望があればご自由にお書きください。

ごみの減量に向けてのご意見やご要望について、「市への要望・意見」についての内容が77件で最も多く、次いで「指定ごみ袋の有料化について」が58件、「ごみの減量・分別促進につながる事」が54件となっています。



※自由意見を一部抜粋しています。ただし、◆指定ごみ袋の有料化（39～46 ページ）については、全意見を記載しました。

◆市への要望・意見（77 件）

内容
川西市もお年寄りが増えているのに、広報にごみ収集日を載せていただいていないので、年々忘れがちになる者にとっては困っています。昔より収集日が複雑になっているのに、これでは70代、80代の方は、家にごみをためてしまうかもしれません。なぜごみの日を広報に載せていただけないのでしょうか。どうか大きな字で載せていただけるようお願いいたします。年末年始の時のごみの日は特に複雑で、とても字が小さく分かりにくかったです。もう少し考えていただけますようお願いいたします。
ごみ減量の必要性は大抵の人が知っていると思います。具体的に細かくどういうことを各家庭がすればよいか教えてほしいです。雑草の処理ですが、川西市ではどうされているのですか。焼却でしょうか。もし焼却していただいているなら考える必要があると思います。いつもごみ回収本当にありがとうございます。
ジモティーみたいな制度があれば使えるものを捨てずに済む。当人同士のやり取りは不安なので市がやってくれたら安心して利用できるし、ごみは減ると思う。リサイクルショップに持ち込んでも二束三文なので、市内でほしいと思われる方に渡れば嬉しい。フリマサイトのようにインターネットで見られるようになれば利用したい。
公園のごみ箱にバッテリーが捨てられている等、ルール違反の人が居るのは分かりますが、ごみ箱を撤去するだけで終わるのではなく、不要な服や本などを持ち込み、必要な人が持って帰れるステーションをつくるべきだと思う。ごみこそ次の資源。住みやすい街川西市にするための取り組みだと思います。
生ごみの処理をする装置を家庭にひとつ備えるよう義務づけるくらいの強制力は必要ではないか。勿論購入時の補助は必要だと思う。また、空き缶や空きびんを捨てるまでの保管期間に害虫が発生して、見た目が不潔である場合も考えられる。保管容器の配布なども検討課題としてほしい。
ごみ問題について小学校への出前授業をするなど小さい頃からの意識付け。リサイクル品を出しやすい仕組みを検討してほしい。
リサイクル可能な「アルミ缶」「スチール缶」「びん」について常時受け入れ可能な市管理の収集場所をつくってもらいたい。
リチウムイオン電池を使った機器について、幅広い機器に使われているため、回収場所などの情報がもっとほしい。
生ごみ乾燥機などの助成を拡充してほしい。

◆指定ごみ袋の有料化について（58 件）

①賛成（14 件）

内容
ゴミ袋の有料化によるゴミ減量の意識化促進。
ゴミ袋を有料にすると、出費が目に見えるのと買いに行く煩わしさと、節約しようとして排出量が減るように思います。 我が家には堆肥は必要ないのでコンポートよりも、生ゴミ乾燥機や天日干し用の網などの補助金があると、利用するかもしれません。
ゴミ減量はステキなことだと思います。袋の有料化には素直に応じられないけれど箕面市がやっている毎年、何枚かを各家庭へ配布して足らずは買うシステム（まだやっているのかは…不明）。これだと、配布されて使った分が目に見えるのでなるべく買わずにがんばれそう。この話を聞いた時に、購入してまでゴミをだしたくないし、購入は減らしたいかは減量になると思った。現在、ごみ袋が無くなったら買うその都度購入で1年に何枚、使っているのかな…と改めて思いました。ゴミが多くない時も45Lのごみ袋を使っていて環境にも優しくないとも感じます。でも、個人的に、物価も上がり購入にロスを減らすようになっている。自分に使えないものも、他の人からすれば使うものを意識して断捨離してはメルカリや人に聞く。中学制服は学校へと最近では捨てればゴミを意識してやっています。
有料のゴミ袋にするのであれば強度のしっかりとしたものにしてほしい。
ゴミ袋を有料化する際はレジ袋位の小さめの袋も作っていただきたい（ゴミの量が少ない為）。
プラスチックゴミは、汚れたものは燃えるゴミと、徹底されてない。とくに、年輩者の理解が進んでない。粗大ゴミは、傘やフライパンなどの普通の生活で出るゴミは、もう少し出し方のハードルを下げて欲しい。市役所へ連絡をして、指定場所に置いてとハードルが高い。高くてもいいので、有料ゴミ袋を作って出すように出来ないかなと思う。
ゴミを減らすことは、絶対必要なゴールなので、リサイクル、ゴミ袋の有料化など手段になり得るものは積極的にやるべきだと思っています。以前住んでいた場所に比べて川西は住民の意識が高く、ゴミ当番もスムーズです。ただご高齢の方にはゴミカゴなどの出し入れは厳しいだろうなと思っています。有料でもよいので、設置型のステーションを置けたり、自宅前廃棄ができるプレミアムコースがあっても良いのに。
今ガラス瓶に入った飲料がどんどん値上がりしている。リサイクル費が洗浄など手間がかかる。本来ならビールやジュース等がリサイクルだったら、紙やプラスチックが増えなかったと思う。もうこわれてしまった流通を戻すことは出来ないし、手軽に暮らすことに慣れた生活は捨てる事が出来ない。燃えるゴミの有料化は進めた方がよい。
川西も他市の様な有料ゴミ袋を使ってゴミを出す制度に変更すれば良い。
有料ゴミ袋を作ってほしい。
例えば、ごみステーションでは、ネットの上に青いネット（カラス予防）の最低限のマナーなど、一部を除いて守られている方だと思いますが…同様に、プラスチックや紙類などごちゃ混ぜで出す為、大変困っていることもあります。※ひとりひとりの心がけ次第でごみは減らせるはず。指定ゴミ袋も私の廻りでは有料となっている所も多くなっています。有料化も反対する人がいても、今はやってよかったという声なども聞きます…意識の違いではないでしょうか。

内容
もえるゴミとプラの袋を有料（大・中・小）にして自分の家の前に出す。以前住んでいた地域で、自分の家の前に出す為ちゃんと分別され、袋有料により出されているゴミの量がとってもへっているのを感じました。川西市でもそうすればいいのと思っています。
一部有料化は仕方ないと思うが、今以上の値上げは止めてほしい。ゼロカーボン本当に嬉しいのだろうか？
お菓子の個包装 袋の大袋はリサイクルにまわしますが個包装は汚れているので、洗剤を使って水を汚すとリサイクルを天秤にかけて捨てています。 ゴミ袋有料化について オムツを使っている家は負担が大きいと思います。オムツ代もバカにならない上、努力や工夫で減らせるものでもない（布オムツとかは解決にも意見にもならない） 我が家も昼オムツ卒業後は毎週のゴミ袋が一つ減りました（1ヶ月で4～5袋減っています）。 草刈りの草について 乾燥させると袋やぶれて入れることができないため、水分を大量に含んだ状態になります。一回でゴミ袋を7～14袋くらい余裕で使います。貯めておいて毎週3袋ずつ捨てています。量が多すぎてコンポストもできません（農家の人が使っているレベルのコンポストが必要です）。 自然のものを捨てるためにプラ袋にわざわざ入れる事も、わざわざお金かけて燃やす事もゴミと混ぜられてゴミになる事も色々無駄だしもったいないな。と毎年思っています。さらに、そこに「有料」の袋にいれるが追加されるのですね。ここに捨てに来てください。とか夏の1ヶ月に一回、回収者が来るとか、ゴミ減量を目指すにあたり何か対策を立てていただきたいと思うことの一つです（自治体でやっている公園清掃の時も大量に出ます）。 生ゴミの肥料化について 本体購入のハードルより作った肥料の使い道のハードルが高いです。園芸もしない庭もない土は燃えるゴミに捨てられないなら肥料にせず捨てる選択肢を取るしかないと思います。他の市でコンポスト肥料を回収しているところもあると聞いて、それは良いなと思いました。コンポストは廃油も捨てられるので良いなと思っています。 袋の有料化 有料化は意識も低い人にも訴えられるので良いなと思う面もあります。しかし他の対策は何もせず有料化だけは、なんだかなあ。と不満な気持ちもあります。ゴミステーションの料金も高くなりましたし瓶ゴミのオリコンも各ステーション任せになりましたよね。次は有料化と… ただただ「袋買うお金払って」「ゴミ減らして」は簡単で誰でも言えるなと思いますし部下なら指摘します。本当にゴミ減量を考えて目指しておられるなら家庭から出るゴミの何が多いのか何が減らせるのか、それぞれの家庭に任せるという名の放置ではなく分析して改善案を出していただきたいです。 よろしくお願いします。

②反対（26件）

内容
ゴミ袋有料化は反対です。駐輪場など屋根などの整備もせず、白線を引いただけで有料化したりと、ただの税を徴収するためだけの手立てに思えます。実質手取りが減っている中で、なんでも物価高だから、世界では、といった論調で有料化を進めるのは困ります。
指定ゴミ袋の採用は頑固として反対します。経済的にも市民の負担につながります。スーパーのゴミ袋の再利用もできなくなります。その点、どうお考えでしょうか。
ゴミ分別は、分かるが、それに対して有料の袋になってしまうのは反対です。 分別に徹底してそれぞれが意識していけるように貼り紙等、徹底して欲しい。
ゴミを減らすためのゴミ袋の有料化は大反対。さしみを買えば食べない菊の花やドラキュラシートなど、必然的にゴミが付いてくる状態なのに、なぜそれを捨てるための費用まで消費者負担？改善すべきは他にまだまだある！安易に何でも有料化すればよいのではない！これだけ物価が上がり、平均年収のサラリーマン世帯ばかりがバカを見ている状況で、更に家計を圧迫しないで。
指定ゴミ袋による有料化はいつからですか？初めて聞いた話でびっくりです。透明な袋を使いきってからにして欲しいです。決めてからのミーティングやアンケートなどは順序が逆だし唐突すぎて乱暴だと思います。
指定ゴミ袋の導入には反対です。環境問題やSDGsにかこつけて市民サービスの低下を正当化しないで欲しい。
ごみの減量は大切なことだと考えておりますが、指定ゴミ袋による有料化には疑問を感じます。指定ゴミ袋を購入することを避けるために駅やコンビニのゴミ箱に家庭ごみを捨てるモラルのない人を増やしてしまうのではないのでしょうか。
ゴミ袋有料化となっても、指定ゴミ袋以外の袋でゴミを出すマナー違反が出るのが予想されます。回収されず、ゴミステーションに残った場合、結局ゴミステーション前の住民が対応することになります。ゴミステーション前の住民としては大変不安に感じ、不満です。今までのルールでも過去二十年、何度もルール違反で残されたゴミを処理してきました。 以上の理由から、ゴミステーションを廃止し、各住戸前回収として頂きたいです。指定のゴミ袋で出す事も、ゴミ減量に取り組む事も、見える化して各世帯毎の責任を明確にすべきです。環境のため方針を出すことは役所として必要なお仕事だと思いますが、市民に負担を増やすだけではなく、「役所としてもここは負担増になるが頑張ります」という共に背負う姿勢は必要ではないですか？ ゴミ減量は役所としては負担減ですよね。その分の各住戸前回収はトレードオフとして成立するのではないのでしょうか。
買い物をするスーパーや百貨店から個別包装を無くさないで家庭に持ち帰り分別しても意味が無いと思う。豊中市役所で、給食で残ったパンが実際に詰んでありそこから肥料になる仕組みが展示されていたのを見て少しでも食材を無駄にしないといけないと買い物時に心がけるようになった。転入前は世帯人数に応じてゴミ袋が無料で配布され足りない分は有料でした。 世帯分離していても一緒に暮らしている家庭や住基を移さないで単身赴任中の家族がいたりするとゴミ袋が使用しないまま余っていると聞く。ゴミ袋を有料化にしてもお金で買えば捨てられるので有料だから削減しようとは私自身はあまり思わない。

内容
市長のインスタライブで有料ゴミ袋の話をチラッと聞きました！川西の良いところは前に黒でも OK だったゴミ袋だけど今は白のみだけど、安く買えて家計に優しい市だから好きだったのに万が一有料になれば出費がかさむのでやめてほしい！それに有料にしてみんながそれを守るとも思えない。適当な袋に入れ捨てたら誰が捨てたかわからないゴミが増えると思う。そうなるゴミ当番の人は大変だと思う。誰が捨てたかわからないなら逆に有料ゴミ袋削減の為、他の人が捨てているから我が家も捨てようって家が確実に増える！私も捨てるかもしれない。そうなる逆にゴミがあふれると思う。なので今のまま白のゴミ袋でリサイクルできるゴミの協力と呼びかける方にしてもらいたい。何もかも値上がって大変なのにゴミ袋の負担は勘弁してほしい！てかルール違反のゴミがあふれるのは絶対反対！有料ゴミ袋反対！！
ゴミ袋の有料化は絶対に反対です。もし導入するなら、大中小と袋を分けてほしい。
ゴミの減量化に努めていますが、ゴミの有料化を予定しているみたいですね。年金生活なのでゴミ有料の費用負担は困ります。生ゴミを簡単に堆肥化する商品の普及を進めてもらいたい。
ゴミ袋配布はかえってゴミを増やすことになるので反対です。不法投棄が増えたり、新たに袋を配布するコストを考えるとよくないと考えます。今のやり方（各自が用意した透明の袋）がいいと思います。
・このアンケートは回答を誘導する設問となっており、あまり良いものではない。 ・指定ゴミ袋導入はゴミ削減には繋がらないと考える。変わらず週に2回のペースで捨てるだけである。それを週1回にケチる人が出てくると思うが、その方法はゴミの減量ではなく、詰め込みになると思う。回収員の身体負担がむしろ増えそう。また、破れたゴミ袋からゴミステーションにゴミが散乱することが増えると思う。そういうのを気にしない人がそれをして、真面目な人が当番でもないのに掃除するハメになると思う。また、公共施設や商業施設への持ち込み廃棄も増えると思う。減量にはつながらないし、損する人が増える。 ・減量ではなく、焼却施設の維持費等がまかなえていないのなら、素直にそう言って欲しい。必要な施設なので、そういう観点なら有料化に特に反対はない。
ゴミ袋有料化とか安易に市民に金銭的負担を強いるのではなく、ゴミとなる物の絶対量を減らす為の政策をするべきと考えます。
・指定ごみ袋による有料化絶対反対。 ・あまりきびしくすると不法投棄がふえるのでは。 ・大型ごみを年1回でも無料回収にする。
ごみを減らすことにできることは工夫して取り組んでいますが、どうしても廃棄しなくてはならないごみもあるので、一律有料化（指定ごみ袋）の実施は困ります。高齢者はゴミ袋の節約に、ゴミを出すのを1回とばしたり、重くならないように工夫したりしています。大型ゴミは使えるものは有効利用できるようにリボンやバザー、リサイクルに出せるような場所や日時を増やしてほしいと思います。ゴミ収集をして下さる方は雨の日も雪の日も暑い日もがんばって下さっているのでとても感謝しています。

内容
指定ゴミ袋による有料化には反対。有料にしたらゴミが減るだろうという発想は市民をバカにしているように感じる。二酸化炭素の実質排出ゼロをめざすなら、街路樹を伐採するのではなく、植物の光合成を利用すべきではないか。1人1日マイナス91g…というのも、元々ゴミ減量に取り組んでいる人にとっては、そうでない人と同じ土俵に上げられる事に違和感がある。”1人1日〇〇g以下”とした方が良いのではないか。余談ではあるが、公園のゴミ箱を無くす事も反対だった。ゴミを持ち帰るのは、不衛生でもあるのではないかと思う。家に持ち帰っても、結局は市が収集してくれるのだから、減量にはならないと思うが…
ごみ袋の有料化はしてほしくない。それによって不法投棄がふえるように思う。袋が有料になれば、めいっばいつめ込みすぎて重くなり、高齢者には運ぶのがたいへんになる。
ごみ袋有料は困ります。反対です。収入の少ない私には大きな負担です。不法投棄が増えれば回収の費用も私の払う税金でまかなわれます。(ゴミ収集の人が市の職員で、費用を人を減らしここでも支出を減らしたいとお考えかもしれませんが、市職員が増えれば、サービスも向上し、市内に賃金が還元され、市内の経済がうるおいます。ごみ収集の方々いつもありがとうございます) ごみ減量のため少しぐらい分別が増えて私たち市民に負担が増えることはだいじょうぶ。やりきりたいです。しかし費用が増えるのはとても困ります。減量化と言っても、費用をいかに下げるかの方向性が市民のためにならないなら反対です。市民サービスを減らさないでサービスにお金をかけてください。
2人家族になり、ゴミは少ない方です。ゴミ袋の有料化は困ります。みんながゴミを減らすのを心がけてほしいです。
指定ゴミ袋になるのであれば、袋の大きさを大中小サイズ用意してほしい。
家庭内のことでは問3を「はい」にしましたが、うちは農家ですので、桃、いちじく、みかん、野菜…を栽培しています。一般の方からは想像できない量の廃棄物が一年を通じて出ます。有料化となったら、農業の安い収益を思うと、廃業しかないなと感じました。
ゴミは出来るだけ出した方が町内や、家庭などがきれいになります。ゴミ袋の有料化等は考えないでほしい。協力はしない。
・「一人マイナス91g」はよいとりくみだと思いますが、目標の達成度を「見える化」すれば、さらによいと思います。また、減らしたことで何かメリット（ポイント制？で集まったらよいことがあるとか）を付加することで、よりとりくみやすくなると思います。・ごみ袋を市指定にするという案もあるかもしれませんが、不法投棄がふえる可能性も否定できないので、私個人は反対です。・リサイクルやゆずりあいなどをもっとやりやすくしてほしいです。情報誌も以前はあったと思いますが、今もあるのでしょうか？もしあるのなら、PR不足では？私は最近気づきませんが…。電子媒体はあると思いますが、紙ベースもあった方が使いやすいです。
ごみ有料化に反対します。有料化でごみ減量が計られるとは考えていません。住民に税とは別の負担をかけることになります。罪と罰でごみ減量はできません。

③提案 (18 件)

内容
まず、有料化を測ったところでゴミの削減にならない。有料化にした所で、公共施設のゴミ箱に家庭ゴミを捨てる人が増加したりなど、解決していない問題が悪化すると思う。家庭ゴミに目を向ける前に企業などに目を向けるべきではないか。今回の封筒がいい例えであり、無作為に抽出の 5000 人に封筒と紙がゴミになるとかなりの量になるだろう。もっと慎重に検討すべきではないでしょうか。
袋の有料はするならなるべく安くかしないで欲しい。ただでさえ、物価高の中家計圧迫。
地区ごとに等でゴミの量を測れるなら、その計測結果をゴミ処理にかかる費用と共に住民に示して、このままであればゴミ袋を有料化しないといけなくなる事を素直に伝えてみるのはどうでしょうか。ゴミの量やゴミ処理費用、1 世帯ごとのゴミの量等を毎月、あるいは 3 ヶ月毎などで住民にフィードバックし、ゴミ袋を有料化しなければならなくなる基準と照らし合わせて示す事で、住民の意識変容を期待する事が望ましいと思います。 花屋敷 1 丁目のリバーウエスト花屋敷のアパート前のゴミ捨て場に近隣の方が車道側にゴミを置いていかれていますが、しょっちゅう車がゴミ袋に当ててしまってゴミが周囲に散乱しています。散乱したゴミは 1 週間ほど放置されて、そのまま周りの土地へ離散していきまます すぐ近くの横断歩道は通学路になっていて、子供達の歩く目の前がゴミだらけの道路となっていてしまっています。車道側にゴミを捨てるのが正規の方法か否かは分かりませんが、少なくとも毎週のように子どもの通学路になっている道路がゴミだらけになっているのは事実です ゴミの捨て方を改めるか、ゴミが車に当たらないようにカゴ付きのゴミステーションを設置するなどの対応の検討をお願いします。
現在もごみ袋は購入している為、妥当な価格である事が前提だが、指定ごみ袋による有料化に抵抗感はない。 有料ごみ袋を製造する過程での CO2 排出についてはどう考えているのか。 家庭でのごみの減量の取り組みの中で堆肥化する事は有効と考えているが、市でもコンポスト作りの参加型イベントや竹チップ、もみ殻等の配布などの PR を行ってはどうか。
1 プラは、細かく裁断して少なく。 昔は毎週出したが、今は 2 週になった、 2 DM 等の紙の包装紙は、月一の回収日に纏めて出す 3 ゴミ類は、2 回に分けて回収 1 回は、そのまま小さいゴミ箱へ 2 回目は面倒だが、分別して紙. プラ. 可燃の可否等に分別して出す 4 ペットは上部. 底辺. 胴体とに分けて裁断、分別すれば容積が半分以下 5 カンのアルミは面倒だが、足で踏み潰して、ぺちゃんこにする 6 出す時の袋類は、食パン等の袋に入れて小分けにして保管、廃棄の時は容量をみて収納袋の大きさを決める 7 団地のゴミ収集場所には、少なくとも大きな袋で廃棄されている(サイズに合っていないサイズ)特にペットが目立つので、小さな袋等は余裕のある袋に纏めて数を少なくしている。 8 コーヒークス等は、肥料として花壇や、掃除の時の新聞代わりとして代用 有料化にするならば、容量サイズも一考かと思います。

内容
ゴミ袋を市指定袋にしてサイズをなるべくちいさくする。袋サイズを3種類で大きくなるほど割高にまた、紙をなくす方向性でかんがえるとか。
川西市専用ゴミ袋でサイズに応じての有料制にする。ゴミステーションの家に管理費用を利用者が払う。ビン、カン、ペットボトルは専用ステーションを作り、また、指定の場所に運んだ方に量に応じた配送費用を支払う。詰め替え用購入時に補助金 pay pay などをつける。購入時に廃棄物コストの見える化を行う。
各自治会のゴミステーションでのゴミ回収だけではなく、市内に展開している企業やスーパー等、市民がご身近に感じる場所や利用している所に何かしらゴミの回収出来るような場所の設置等検討するのもいいかと思います。本気でこの取り組みを進めるのであればそのくらい考えていくなど本気度が試されるのでは？そうでなければ、ただ安易なゴミ袋の有料化だけでは、ゴミを減らすというよりも、税金をとられるだけと認識し、川西市からは何も恩恵ないとみなし不満も増え、他の自治体へのふるさと納税増加などありえるかもしれません。
無料ゴミ袋を電子チケットで配布し、1ヶ月何枚までと指定する。それ以上は有料化にする。家族構成で多少枚数を調整する。
有料化になると、庭の雑草、落葉等はすぐに大きな袋でもいっぱいになるので別扱いにしてほしい。非常に困る。(生ゴミ等は有料化でも良いと思うが)
ごみ袋の有料化による不法投棄に関し、パトロール等の対応を行って欲しい(目につきにくい場所への投棄が懸念される)。
生ごみたい肥化ポットの格安入手補助制度があれば活用したい。・要望：有料化になった袋は、丈夫な袋にしていだきたい。(以前住んでいた町の有料袋はすぐに破れて使用しづらかった) 当該活動は、全ゴミ収集有料化の前活動では？
日頃は毎日の生活に欠くことができないゴミの収集で大変お世話になりありがたく感謝申し上げます。ここ大和地域でも皆さんゴミ減量化にずいぶん前から取り組んで、リサイクルにも熱心です。高齢者や乳幼児のおしめなど、昔と違うゴミが増えることには仕方ないと思います。有料ゴミ袋化は今まで再利用していた物まで燃やすことになり、ゴミ減量化にならずCO2増加です。ゼロカーボン目標は良いですが、これ以上求めるなら、世の中が例えば、ドイツは容器を持参しジュースなど購入すると聞いています。大胆な社会の改革が必要です。狭い庭ですが、草花を植えて楽しみ道行く人も楽しんで下さり、地域の方々とのコミュニケーションにもなります。一律に有料袋をとられますと負担も増えます。ゴミステーションも共生社会ですので、体力的に無理な方はごみ当番をはずし、できる方が手伝うなど、何とかうまくやっています。個別収集は収集車のガソリンの無駄。CO2削減にならない。人件費の無駄にもなります。

内容
貴市のゴミ収集につき、日々感謝しています。 ※家庭ゴミの有料化について ①公道等の善意清掃者（枯葉の処分・雑草取り等）の金銭的負担となり町の美化が後退するのでは…。 ②ゴミ減量化のための有料化を多く語るのではなく、具体的目的を挙げてはどうか…。例えば、進化していくであろう「EV ゴミ収集者」の購入に充てるとか…。 ③有料化による代替効果（リサイクル化の増）が語られるが、容器を洗浄するために有料の水（水道水）や洗剤を使用する。●●●が残る。 ※ゴミの減量について啓発のみではなく中学校、高校の教育科目（廃棄処理方法等）として学ばせる（強化する）。ゴミ処分のルールや大変さ、人員、また金銭的成本を知らせる。
指定ごみ袋による有料化は先行事例では、当初は減量化の効果があるようだが、次第に減量化の効果が薄れていくと聞いている。先行事例等を精査し、低所得者にも優しい減量方法を検討して頂きたい。
ごみの減量には賛成ですが、生ごみの有料化には反対です。有料は今の大型ゴミだけでよいのでは。市民の意見を十分に聞いて有料化するとしても1～2年の猶予期間をとって実施すべきと思う。そうしないと不法投棄が増えるだけだと思う。川西市は、市民サービスが年々近隣市に比べて悪くなって来たと云って子どもや孫が出ていってしまい年寄りのみが残っている様に感じている。
ゴミ袋有料化とごみの減量とが、なんだかまだよく分からないと思います。有料にしてゴミは少なくなるのでしょうか？そのへんの納得が得られるのかなあと思いました。
ある自治体の話ですが、ゴミ袋を有料にした。年齢的に小・中・高の子どもがいる家庭が多い所で、ゴミも多い。ゴミ袋は、みんなたくさんいる。地域の会で6等の賞品がゴミ袋で、みんなゴミ袋が欲しい。1等、2等の賞品は皆もっているし。でもやっぱり6等になるのは「いや」で、結局頑張ってしまうと。生きている限りゴミは出る。ゴミがへるのは老いたり、病気したりと、健康的にゴミをへらす方法は大変むずかしい。家庭用のゴミ処理機のたぐいの物を、もう少し手軽に買えるものに国金代で家庭に広げるようにのぞむ。

※「●●●」表記は手書き回答による判別不可の文字

◆ごみの減量・分別促進につながること（54 件）

内容
食品に限らず、必要以上に買い物をしないことが大切だと思う。よく考えて買い物をすると、長く使い、使い切って処分するのでごみは減多に出ない。引っ越し等でやむを得ず処分する家具、家電、食器、雑貨はメルカリやジモティーでリサイクルすると喜ばれるし、買取業者に出しても再利用してくれる所に行き着くのでごみにならないで済む。本などはバリューブックスで循環するようにすると、思わぬ本に出会うこともあり充実感を得られる。消費の段階からごみ問題は始まっていると思う。生活に浸透している大量生産、大量消費の誤った感覚を本気で見直す必要があると思う。
田舎では野菜くずや抜いた雑草を畑でうまく利用することも多い。一軒家の庭でコンポストを利用される方もいる。マンションだとそういう場所がないので、身近な場所に公共のコンポストのようなものがあれば少しでも利用したい。
日々忙しくて、時々分別できないときがあります。缶や瓶は臭うものでもないのでもいろんなところに捨てられるようになってくれたら嬉しいです。また衣類やおもちゃなどですが、人ではなく施設に寄付したいと思うので、寄付できる先を教えて欲しいです。
近所に（地域のコミュニティセンター等）「自由にお取り下さい」と表示したリサイクル場があれば、不要になった物もリサイクルしてもらえて助かると思います。
家庭でのごみの減量に向けて、再度見直し努力していきたいです。

◆ごみの分別について（52 件）

内容
守らない方は別として、川西市はごみの分類が非常に多すぎて、分別が分かりにくい物が燃えるごみとして出ていることもあると思います。実際、自身もプラスチックごみが一番困った時があり市へ問い合わせをしたことがありました。「色がついて取れない物は燃えるごみ」、あるいは「油汚れがひどく取れない場合も燃えるごみ」と教えていただきましたが、色は見た目では判断できるので分かりやすいですが、油汚れに関しては「洗剤で洗わなくてもよい」と補足もあったので水で洗い流したものの油は取れませんし『どの程度の油汚れ』が燃えるごみになるのか未だによく理解できていません。自分なりの基準としては「再生に使えそうかどうか」として、ごみの分別をしています。そして、外見はプラスチックごみでも芳香剤などの中に綿のような「混合したごみ」の場合、リサイクルできないから燃えるごみと思っていますが、これも分からずにいます。
そういった観点から、市外から引っ越してきた方や、家族間でもその基準は異なるため、分別に関して（特にプラスチックごみ）の詳細も記載された方がよいのかなと思います。少なからずそういったことでリサイクル資源も増えると思いますし、燃えるごみの減量につながるのではないかと考えています。人の食いつきがよいのは、無料や低価格で物がもらえること。例えばごみ袋を配布する等。その際にごみの減量について、分かりやすく人を引き付けるような広告を入れるのもごみの減量につながるのではないかと考えています。またその際、リサイクル紙などを使用したりするのもよいかもしれません。人がリサイクルや減量に興味を持つことがごみ減量への取り組みが少しでも増えるのではないかと考えています。

内容
減量ではありませんが、不燃ごみの収集について問います。不燃かつ一辺 40cm 未満の大きさであれば可となっていますが、小型ホワイトボードの鉄板（一辺 40cm 未満）が産業廃棄物として収集拒否されました。また、子どもの小さい頃の工作でびんに紙粘土を貼り付けたものは不燃ごみなのか、紙粘土を剥がしてびんと燃えるごみとして出さないといけないのか悩むことがあります。細かいことで「どうしたらよいのか」と思うことがよくあります。市の方に問い合わせがあった質問について、不定期でも広報誌に載せていただければ、ごみの収集について理解が深まり分別についても理解ができるのではと思います。ご多忙とは思いますがご検討願います。
生ごみを減らすため、ほとんど分別しているけれど、マヨネーズや詰め替えシャンプーなど、どの程度の汚れならプラスチックごみにしてよいのか迷う。生ごみをたい肥にする道具がもっと安価なら使おうと思う。
分別が始まって、すべての分別をして来ましたが、報道でほとんどリサイクルされていないと知ってから意識が下がりました。今は袋をきれいに洗ってまでは分別せず、燃えるごみに出しています。商品の包装などの簡素化は企業の協力がもっと必要かと思います。
洗えるものは洗って出しているのですが、どこまでが汚れと判定して分別するのかよく分かりません。
マンションなので、いつでも分別してごみは出せます。変な出し方をすると管理人さんから指摘されます。できるだけごみの減量を心がけるようにしたいと思います。

◆企業等への要望・意見（47 件）

内容
ペットボトルにせよ、缶にせよ、段ボールにせよ、今の日本社会では通常の消費活動で物を購入するとごみもついてくる。過剰包装を可能な限り断っても、例えば小袋に入った大袋のお菓子など、店頭に並んでいるものがすでに過剰包装であったりもする。ペットボトルなどはデポジットのシステムを定着させる、缶は再利用可能なびんを使うなど、企業・組織や社会意識が大きく変わっていかないとごみは減らない。個人に減らせ、がんばれという国民(市民)の努力を追求しても効果は薄いと考える。
子どもが学校から大量の広告や案内をもらって帰ってくる。同じものを子どもの数だけ手にすることになる。これはそのまま我が家のごみとなっています。学校やイベント広告主が配布物をもっと減らせば、我が家のごみは減ります。
商品、食品の梱包を何とかできませんか。少しの商品に多量の梱包材が使用されています。また、プラスチックに容易に剥がせない紙が貼られています。製造会社は何も考えていないように見えます。行政から指導できないのでしょうか。
最近のプラスチック製食品容器は丈夫すぎて捨てるには量が多すぎる。もっとやわらかい素材を使えないでしょうか。
家庭ごみのほとんどが商品の包装なので、家庭の小さな努力よりも企業がごみについて改善することが先決です。

内容
メーカー等が製造ばかりでなく、回収などに取り組む必要がある。昔は空きびんなど回収していた。
購入する商品に廃棄する包装類が多いのでメーカー側で減量してほしい。

◆ごみステーション・当番について（45 件）

内容
現在ごみを捨てる家の半数の家がごみ当番をしています。当番であっても、当日都合でできない場合、当番でもない人が自主的に処理をしています。その結果いつも同じ人ばかりが処理をすることになり、近所のため、不公平であることが言えずに不満となります。高額な回収料金を負担しても、かごの始末までを回収の方にしていただきたいです。公平に負担すべきと思います。ごみ当番ができない高齢者がこの地域も増えていくので、回収費用を十分に税金で取っていただいて、後処理までしていただく方がありがたいと思っています。近所付き合いとごみとの関係を行政が引き受けていただく方法はないものかと思っています。尚、現在回収の方は仕事をきちんとして下さっていてとても感謝しています。
ごみステーションには現在は行けませんが、将来は年齢的に無理です。誰もごみステーションの管理をする人がいないです。その場合は希望としては各家の前にごみが出せるようにしてほしいです。
現在当番制の地域です。共働きで子どもが学生で家族皆が7時には外出するため、当番でない時は、他の当番の方がごみかごを出す時間がばらばらのため、我が家のごみ出しができない時がある。生ごみを残したくないため、とても困っています。
下肢障がい者のため、中腰の姿勢作業が辛いです。しかし仕事しているからと当番ができない方が半数以上おられます。この先自身が動けなくなったらと考えこんでしまいます。
回収車は時間通りに来てくれており、当番の時は助かります。
ごみを回収する作業員さんが夏は暑くて臭いが気になる中、冬は寒い中、非常に困りながらごみ収集している姿を見ます。環境問題はもちろんですが、せっかく考えるならば、私たちの意識一つでごみの出し方のマナーについても考える必要があるのではないかと思った次第です。

◆ごみの減量について取り組んでいること（35 件）

内容
とにかくごみは小さく（切ったり、押しつぶしたり）してマーケットからいただいた袋（ナイロン小）に1日分を入れて圧縮して捨てている。
私は孫と夕食を共にしていてごみの話をよくします。プランターでミニトマトなど育てて肥料に野菜の皮や傷んだ所などミニ庭に干して肥料としてごみを少しでも少なくすることに努めています。
我が家では野菜の切れ端、果物の皮、お茶の葉、コーヒーかすをまとめておき、2～3日に1回（100g程度ですが）我が家の庭に埋めています。少しはお役に立てばと思っていますが、皆様のアイデア等が間接的に知ることができればと思っています。そのようなサイトがあれば教えてください。

内容
・牛乳パックは広げて切って簡易な板にする。 ・ペットボトルはスーパーの回収箱に入れる。 ・古新聞、チラシ、古紙、段ボール等は近所でグループを作り、業者に売っている。 ・古着のうすい物は切断してウエスとして家の掃除に使っている。 ・厚い古着はリサイクルショップで売る。
買いだめをしない。必要最小限の買い物にし、冷蔵庫で不良化させない。ごみは元々は買って来たものです。

◆地域のごみ捨ての状況について（21 件）

内容
まだまだ古紙の回収で、新聞とダンボールしか出ていない所が多いように思います。何かで見ただのですが、名刺一枚も紙で古紙に回収と書いてあったので、値札包装紙、あらゆる紙類は、大・小にかかわらず個人情報の部分を切り取り古紙として出していますが、ほとんどの家庭で出していないので、古紙として回収に力を入れてほしい、各家庭に通達してほしい。後は、有害のごみなのですが、電池 2 個とか回収に気がつくのかなと思ってしまいます。何に気をつけて出せばよいのか、生ごみでも取り忘れがあったのですが、小さい電池を出して気が付くのかと心配します。
近所の方が常にごみがきちんと入っているか、ごみのはみ出ているもの等気を付けて下さっています。ごみの回収をして下さる方も親切でてきぱきとして下さって感謝しています。
プラスチックごみの回収日に強風時は道路に散乱します。何か対策方法があればと思います。

◆大型ごみについて（20 件）

内容
40cm 以上の物を切断しなければならないのが大変です。粗大ごみの手続きに困ります。我が家は道路から細い路地を入った所なので、通りまで前日に運び出さなければなりません。他人の家の前に置かせてもらわなければなりません。雨にでもなったら大変迷惑をかけますので、つい手続きもせずに家に置いたままになっています。
大型ごみの処分が大変ですので、基準の緩和を検討していただきたい。持込み処理の手続きが複雑な感じがします。
有料回収の大型ごみは申し込みが繁雑。何枚必要かもあいまい。券を買いに行くのが面倒。予約が取りにくい。回収の方が口を聞いてくれず怖かった。（個人の感想です）
大型ごみの無償化を依頼する。
大型ごみの収集を年に 1 回でもお願いできればと思う。

◆収集頻度について（18 件）

内容
自治会で月 2 回廃品回収していただいています。市の方でも紙、布の回収を月 2 回していただいています。それを廃止するのはいけないのでしょうか。市の方もリサイクルされていると思いますが、せつかく自治会の方も回収して下さっているのひとつにしたらよいと思います。運搬にも多くのエネルギーが使われていると思いますし、コストの削減につながらないのでしょうか。
ごみの減量は必須だと思います。でも、缶の回収が月 1 回というのは周りでも聞きません。資源ごみでもあり、以前の 2 回に戻してほしいです。
燃やさないごみの収集日が月 1 回は少ない。せめて月 2 回にしてほしい。ペットボトルの収集日は毎週 1 回の必要はない。月 2 回でよい。
缶・びんは月 1 回の回収に変更されたが、どうしても出せなかった時は、1 月待つことになり、不便を感じる。
ごみの減量に対する意識、心掛けは大切ですが、分別したごみの収集回数はこれ以上減らさないようお願いします。

◆「二酸化炭素の実質排出量ゼロ」について（12 件）

内容
「ゼロカーボンシティ宣言」をされたことは、非常に素晴らしいと感じます。私はこのアンケートがくるまで知りませんでした。市民の皆さんがその重要性や現状のごみ収集週 2 回、ごみステーションが自宅の近い所に設置され、非常に便利でサービス良く運営されていることが当たり前のこととされていると感じますが、そうではない。もっと市民一人一人が今のサービスに感謝しつつ、テーマや数値に対して目標を持って取り組むことが大切だと思います。日々の大切なことであるが、一方漠然と感じるものである。毎年目標数値の達成度、取り組みのケーススタディの発表、ごみ出しマイスターの育成、「ゼロカーボンシティ宣言」スローガン設定元年の告知、(駅周辺、ごみステーション、自治会) による市民意識の盛り上げを期待したい。そして市民にやさしい、環境にやさしい、心のやさしい市民つくりになりますように。
日頃できるだけ努力しているつもりです。が、やはり 1 人 1 人が心がけないとゼロカーボンの効果は出ないと思います。皆がしっかり意識できるように、政府、国がコマーシャルで細かい分別の仕方を映像で分かりやすく示したらどうかと思います。
ごみの減量は必要だと思うので、これからも努力をしていきたい。だが、CO2 排出量ゼロについては違和感を覚えるところもあり、ゼロにすることは人間や動物、植物が生きていけない世界ということでは？少し極端な考え方ではないかと思う。
マークの有無にこだわらず、プラスチックごみと判断できかつ、汚れがないものはできるだけ資源化したいものと思います。私自身は夫や母に廃棄準備を任せることが多いことから、市民ミーティングに参加する資格には乏しいと自覚していますが、自分たちが排出したごみの行方にはとても興味があります。「焼却炉の性能がよいので、大抵のものは燃やすごみでよい」とか、「プラスチックが混在している方がよく燃えるらしい」とご近所でもよく聞きますが、CO2 排出量抑制という視点に立つと看過できない気がしています。

◆アンケートについて（4件）

内容
少しずつ意識を高めていたつもりでしたが、改めてアンケートに答えると、燃えるごみに関して、特に紙類やお菓子袋などに関してはまだまだ意識が低いことを実感しました。 このようなアンケートはもっと多くの方にすることで自分も含めて意識が高まるようにも思います。
ごみの減量とCO2の設問は本質が違います。ごみ処分場の稼働減やごみ収集運搬を減らす方向に持っていかないでください。あくまで家庭ごみを減らす対策を取ってください。
このような調査は再々やるべきです。行政がごみの減量が必要であることを市民にもっと訴えかけるためにも。

◆その他（42件）

内容
自宅で高齢者を介護すると、紙パンツや紙オムツを使用することになり、赤ちゃんと違って水分量が多くなり重くなる。今後こういった家庭が増えてくると思う。ごみの減量化をどのようにしたらよいか考えてしまう。
一家にガレージが車2～3台でも下はコンクリート、樹木は1本も植えない家が多くなっている。少しでも緑豊かな環境にすれば空気も良くなると思う。暑さも少し抑えられると思う。
ごみの減量って難しいですね。チラシ1枚でもメモに使ったりしていますが、それもメモに使ってしまえばごみになりますからね。
いつもきれいに持って行って下さるので、助かっています。ありがとうございます。
ごみの回収に来ていただいている方々には毎日、ほぼ時間通りに確実に来ていただき、いつも大変感謝しています。
恥ずかしながら、アンケートに答えてスローガンを初めて知りました。もっと周知してそれぞれの意識が高まるとよいなと思います。

IV 資料編

令和 6 年 4 月

「ごみの減量を考える」 市民ミーティングのご案内とアンケート回答のお願い

川西市では「ともに取り組み、目指そう、持続可能な循環型社会」を基本理念に、ごみ減量化の取り組みを進めており、令和 6 年度からの 8 年間で【1 人あたり 1 日 91 g のごみ減量】を目標に、指定ごみ袋による有料化などの取り組みを実施していくこととしています。

ごみを巡る課題は、市民の皆さんの生活に直結する身近なものであり、皆さんのご協力なくして解決できる問題ではありません。

そこで幅広い年代の方にご参加いただき、ごみの減量を市民の皆さんと一緒に進めるため、市民約 5,000 人（無作為抽出）に、このご案内をお送りいたしました。

つきましては、「ごみの減量を考える市民ミーティング」へのご参加と「市民アンケート」へのご回答について、ご協力をお願いいたします。

＜市民ミーティングのご案内＞ ※詳細は裏面をご確認ください

- 1 内容 市からごみの減量化に関する計画と市のごみの現状を説明し、日頃感じているごみ排出やごみステーションの管理に関する困りごとなどを参加者同士で意見交換します。
- 2 日程等 裏面をご覧ください。
- 3 申込み 次のいずれかの方法で令和 6 年 4 月 25 日（木）までに申込みください。
A) 以下の URL または右記の二次元コードから回答。
<https://logoform.jp/form/tTN6/531988>
B) 電話 参加希望日時、氏名、住所、電話番号、年齢をお伝えください。
C) 同封の申込書に必要事項を記入し、アンケートと同じ返信用封筒に入れて郵送（当日消印有効）もしくは、美化推進課に FAX。

- 4 その他 ・小さいお子様連れでもご参加いただけます。
・手話通訳が必要な方は、参加申込みと併せてお知らせください。

＜市民アンケートのご回答＞

- 1 内容 ごみの減量や分別などの意識や状況についての調査です。
- 2 回答 次のいずれか方法で、令和 6 年 4 月 25 日（木）までにご回答ください。
A) 以下の URL または右記の二次元コードから
<https://logoform.jp/form/tTN6/532455>
B) 同封のアンケートに記入し、返信用封筒に入れて郵送（当日消印有効）
※封筒のあて名のご本人が引越しや単身赴任、入院等で不在の場合は破棄願います。代筆は不要です。


＜お問い合わせ＞ 川西市 美化衛生部 美化推進課

電話：072-744-1124 FAX：072-744-1221

☆

ごみの減量を考える市民ミーティング 開催概要

■ 内容

- ・川西市一般廃棄物処理基本計画について
- ・ごみの現状と市の方向性について
- ・参加者同士での意見交換

① 自己紹介

② ごみの排出やごみステーションで困りごと、市のサービスについて

③ その他

■ 日時と場所

開 催 日 時			会 場
5月11日（土）	午前の部 9:30～11:00	けやき坂公民館 （集会室）	
	午後の部 14:30～16:00	明峰公民館 （講座室）	
5月12日（日）	午前の部 9:30～11:00	清和台公民館 （集会室）	
	午後の部 14:30～16:00	緑台公民館 （集会室A・B）	
5月18日（土）	午前の部 9:30～11:00	川西北地区コミュニティプラザ萩原会館 （第1会議室）	
	午後の部 14:30～16:00	多田公民館 （集会室）	
5月19日（日）	午後の部 14:30～16:00	アステ市民プラザ （ルーム2）	
5月25日（土）	午前の部 9:30～11:00	多田東会館 （大会議室）	
	午後の部 14:30～16:00	加茂ふれあい会館 （集会室）	
6月1日（土）	午後の部 14:30～16:00	川西市役所 （7階大会議室）	
	夜の部 18:00～19:30	川西市役所 （7階大会議室）	
6月2日（日）	午前の部 9:30～11:00	東谷公民館 （集会室）	
	午後の部 14:30～16:00	北陵公民館 （視聴覚室）	
6月8日（土）	午前の部 9:30～11:00	総合センター （視聴覚室）	
	午後の部 14:30～16:00	川西南公民館 （視聴覚室）	
6月9日（日）	午前の部 9:30～11:00	大和第1自治会館 （集会室）	

■ 確認事項

- ・各会場の定員は30名程度です。なお、6/1（土）は定員50名程度としています。
- ・駐車場は利用できません。公共交通機関等でお越しください。
- ・各会場では手話通訳を実施します。
- ・小さなお子様連れの方も気軽にご参加ください。
- ・当日の気象情報の状況等によって中止することがあります。

ごみの減量を考える 市民アンケート

本市では、将来にわたり安定した社会経済生活を営むため、地球の限りある資源を大切に使い、できる限り循環利用、有効活用を図り、環境への負荷を低減する“循環型社会”の形成を目指して取り組んでいます。

その中でも、家庭から出るごみが全体の排出量の多くを占めている状況が続いており、そのごみの減量を着実に進めていくために、市民のみなさんのごみの減量に対する意識と状況について教えてください。

◆◇ アンケート回答にあたってのお願い ◇◇

●回答は、次のいずれかの方法でお願いします。

令和6年4月25日(木曜日)までに、ご回答ください。

① 郵 送 に よ る 回 答 : 直接記入し、返信用封筒(切手不要・名前の記入不要)に入れて、ご返送ください。

② インターネットによる回答 : パソコン、タブレット、スマートフォンで、
下記のURL、または右記の二次元コードより回答ページにアクセスし、ご回答ください。

◆URL(ホームページアドレス) <https://logoform.jp/form/tTN6/532455>



③ F A X に よ る 回 答 : FAX番号 072-744-1221

●回答は、当てはまる数字(番号)を選んで、その数字を○印で囲んでください。

●アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

川西市 美化衛生部 美化推進課

住所 〒666-0152 川西市丸山台3丁目43番地

電話 072-744-1124(直通)

問1 あなたは、「ごみの減量の必要性について」、どの程度身近に感じていますか。(○はひとつ)

1. 非常に身近に感じている
2. どちらかといえば身近に感じている
3. どちらかといえば身近には感じていない
4. まったく身近には感じていない

問2 本市は、令和4(2022)年8月に2050年までに「二酸化炭素の実質排出量ゼロ」を目指しゼロカーボンシティを宣言しました。ごみ処理の分野においては、家庭から出されたごみの焼却で発生する温室効果ガスだけでなく、ごみ処分場への収集運搬にも多くのエネルギーが使われ、地球温暖化に悪影響を及ぼす問題が潜んでいます。

あなたは、この「二酸化炭素の実質排出量ゼロ」について関心がありますか。(○はひとつ)

1. ある
2. 少しある
3. あまりない
4. まったくない

問3 令和6（2024）年3月に策定した「川西市一般廃棄物処理基本計画」では、スローガンとして『ごみにする？資源にする？それは結局あなた次第～今日から1人1日マイナス91g～』を掲げています。あなたは今のごみの排出量から減らすことについて取り組んでいますか？

（○はひとつ）

1. はい → **問3-(1)**へ

2. いいえ → **問3-(2)**へ

問3-(1) 問3で、1.の「はい」と回答された人にお聞きます。ごみを減らすことについて、工夫していることを教えてください。

（○はいくつでも可）

1. 食品の買いすぎや食べ残しを減らす
2. 生ごみは水気を切ってから出す
3. 生ごみをたい肥化する
4. 詰め替え品の購入を心がける
5. フリーマーケットやバザー、リサイクルショップを活用する
6. 古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す
7. 玩具や子供服などを知人に譲る
8. その他

→ **問4**へ

問3-(2) 問3で、2.の「いいえ」と回答された人にお聞きます。

あなたはごみを減らすことについて、これから取り組むことはできますか？

（○はひとつ）

1. 取り組むことができる → **問3-(3)**へ

2. 取り組むことができない → **問3-(4)**へ

問3-(3) 問3-(2)で、1.の「取り組むことができる」と回答された人にお聞きます。

ごみを減らすことについて、できそうなことを教えてください。

（○はいくつでも可）

1. 食品の買いすぎや食べ残しを減らす
2. 生ごみは水気を切ってから出す
3. 生ごみをたい肥化する
4. 詰め替え品の購入を心がける
5. フリーマーケットやバザー、リサイクルショップを活用する
6. 古紙やびん、缶、ペットボトルなどを分別してリサイクルに回す
7. 玩具や子供服などを知人に譲る
8. その他

→ **問4**へ

問 3-(4) 問 3-(2)で、2.の「取り組むことができない」と回答された人にお聞きします。
ごみを減らす取り組みができない理由を教えてください。(〇はいくつでも可)

1. 時間的な余裕がない
2. ごみを減らす方法が分からない
3. ごみを減らす必要性を感じない
4. 減量は手間がかかる
5. 減量しても自分にメリットがない
6. 家族など周囲が協力してくれない
7. その他

問 4 あなたは、燃やすごみの中に下記の①～⑤のようなりサイクルできるものを捨てることがありますか？

※燃やすごみとは：可燃性で一辺40cm未満のもの（リサイクルに適さない物を含む）

(〇はひとつ)

1. ある
2. ない
3. わからない（意識したことがない）

- ① プラマーク  の付いているお菓子の袋や薬のプラケースなどの容器や包装
- ② 新聞紙や雑誌、裁断した紙くず、お菓子の箱などの紙類 
- ③ ペットボトルの識別表示マーク  のついているボトル
- ④ 牛乳などの紙パックなど
- ⑤ 衣類、タオル・シーツ・カーテンなどの布類

問 5 ごみの排出方法や市の収集に関して困っていることはありますか？

(〇はひとつ)

1. ある → **問 5-(1)**へ
2. ない → **問 6**へ
3. わからない → **問 6**へ

問 5-(1) 問 5で、1.の「ある」と回答された人にお聞きします。

ごみの排出方法や市の収集について一番困っていることはどれですか？(〇はひとつ)

1. ごみ当番ができない（ごみステーションの管理が難しい）
2. ごみステーションまでごみを捨てに行くのが大変
3. 分別方法が分かりにくい
4. 回収日が分かりにくい
5. ごみステーションがカラスなどにあらされる
6. 当日朝 8 時 30 分までにごみ捨てができない
7. その他

(上記以外に困っていることがあればご記入ください)

問6 あなたご自身のことについて、あてはまるものに○をつけてください。

※今後のごみの減量や市民サービスについての課題を明らかにしていくうえで、性別・年代別比較などは、非常に重要です。そのため、お聞きします。

A. あなたの性別をお聞きします。 (○はひとつ)

※3は、自認する性または回答しない、わからないなどを記入してください。

1. 女性 2. 男性 3. ()

B. あなたの年代をお聞きします。[満年齢(※令和6(2024)年4月1日現在)]。 (○はひとつ)

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代 8. 80歳以上

C. あなたの家は、何人住まいですか? (○はひとつ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人
4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

D. あなたが利用しているごみステーションの管理は、ごみ当番制ですか? (○はひとつ)

1. はい 2. いいえ 3. わからない

問7 最後に、ごみの減量に向けてご意見やご要望があればご自由にお書きください。

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

ご回答いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、

4月25日(木曜日)(消印有効)までにご返送をお願いします。

FAXでのご回答もお受けいたします。

※インターネット・FAXで回答された方は、紙でのご返送はいりません。



**川西市
ごみの減量を考える市民アンケート
調査結果報告書**

令和 6 年 1 0 月

発行 川西市 美化衛生部 美化推進課
〒666-0152 兵庫県川西市丸山台 3 丁目 4 3 番地
TEL 072-744-1124（代表） FAX 074-744-1221